

ONSHIN REPORT

【おんしんディスクロージャー誌】

2015



m81



遠賀信用金庫
CLOVER SHINKIN GROUP

contents

ごあいさつ	■ 2
金庫概要	■ 3
リスク管理の態勢	■ 6
総代会について	■ 7
地域貢献活動	■ 9
営業のご案内	■ 13
ふれあいトピックス	■ 15
ネットワーク	■ 19
資料編	■ 21
開示項目索引	■ 38

スモールイズナイス！
地域と共に生きる「おんしん」です。





会長 **中村 英隆**

理事長 **岡部 憲昭**

皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は遠賀信用金庫に対し、格別のご愛顧、お引き立てをいただき、誠にありがとうございます。

ディスクロージャー誌『ONSHIN REPORT 2015』が完成いたしました。遠賀信用金庫の活動等についてのご理解を一層深めていただくために、かわいいメチャくんファミリーの助けを借りながら、できる限りわかりやすく作成いたしました。ぜひご高覧賜りますようお願い申し上げます。

さて、わが国の経済は、アベノミクスの浸透に伴い、大企業を中心に業績の改善が見られ、個人消費も徐々に持ち直すなど、緩やかながらも回復基調を辿っています。しかしながら、地域経済は、円安に伴う原材料価格の高騰や人手不足などにより、依然として厳しい状況が続いております。このため、政府は地域経済に好循環をもたらそうと「ローカル・アベノミクス」を提唱し、地方創生に積極的に取り組むこととしています。

そうした中、遠賀信用金庫は、「お客様の役に立つ金融機関、お客様から選ばれる金融機関、地域のベスト金融機関」という経営の基本方針の下、地域に貢献し、地域とともに歩む町内会的金融機関として、様々な取組みを展開してまいりました。

遠賀信用金庫で公的年金をお受取りいただいているお客様を会員とする「おんしん おむすび会」では、会員の皆様に素敵な特典をご用意するほか、旅行をはじめ観劇やそば打ちなど、地域の皆様の「結び」を深める活動を充実させてまいりました。お陰様で、会員数は着実に増加しております。

本年2月には、遠賀4町の行政、商工会、日本政策金融公庫と提携して、「おんが創業支援協議会」を発足させ、官民一体のワンストップ創業支援体制を整備いたしました。創業・開業への一層の支援を通して、地域の活性化に取り組んでまいります。

また、地域の明日を担う若手経営者を育成する「おんしん未来創世塾」では、本年7月に第3期生を迎え、実践的な経営知識の習得とともに、地域の若手経営者同士のネットワーク作りのお手伝いをしております。

平成26年度の決算につきましては、厳しい経済環境下ではございましたが、当期純利益は、過去最高の1,185百万円を計上することができました。ご預金に対するご融資残高の割合である預貸率(平均残高ベース)は60.28%で、引き続き業界平均を大きく上回りました。金融機関の健全性を示す自己資本比率は14.95%と、国が定める基準(4%)の3倍を超えております。以上を踏まえまして、会員の皆様への出資配当金につきましては、本年度も業界の最高水準である8%を維持することができました。

遠賀信用金庫は、「スモール イズ ナイス」の合言葉の下、小さいからこそ可能な「お客様のニーズのきめ細かな把握」「素早い決定」「素早い対応」「手作りの心のこもったサービス」を実践し、地域に貢献し、地域の皆様のご期待に応えるべく、役職員一体となって、渾身の努力をする所存であります。

今後とも、遠賀信用金庫に対し、格別のご厚情を賜りますようお願い申し上げ、皆様のご繁栄、ご健勝を心よりお祈り申し上げて、ご挨拶いたします。

平成27年7月



メチャくん

金庫概要

経営理念

当金庫は、21世紀に相応しい協同組織金融機関を目指して、地域の中小企業の発展と個人の生活の向上に寄与することに全力を尽くし、その使命を全うする。

経営の基本方針

「人づくり」を基本に

① お客様の役に立つ金融機関

協同組織の金融機関として、中小企業の発展と、地域の人々の豊かな暮らしに貢献する。

② お客様から選ばれる金融機関

お客様を大切にし、積極的で健全な経営に努める。

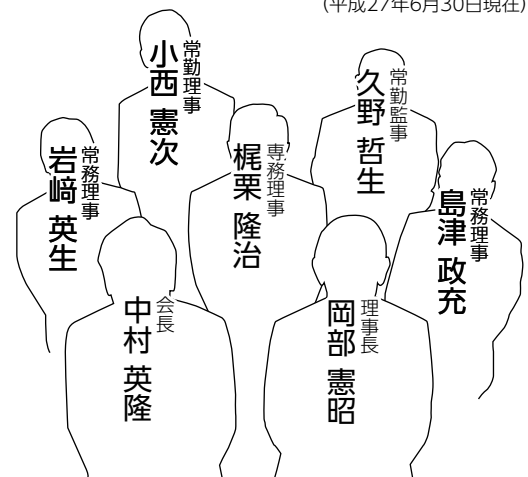
③ 地域のベスト金融機関

知性を磨き、創意と工夫を持って、バイタリティー溢れた行動をする。



常勤役員

(平成27年6月30日現在)



非常勤役員



神村 幸彦 理事



安高 直彦 監事

金庫の主要な事業の内容

1. 預金業務

当座預金、普通預金、貯蓄預金、通知預金、定期預金、定期積金、別段預金、納税準備預金、譲渡性預金等を取扱っております。

2. 貸出業務

(1) 貸付 手形貸付、証書貸付及び当座貸越を取扱っております。

(2) 手形の割引 銀行引受手形、商業手形及び為替手形等の割引を取扱っております。

3. 有価証券投資業務

預金の支払準備及び資金運用のため、国債、地方債、社債、株式、その他の証券に投資しております。

4. 内国為替業務

送金為替、当座振込及び代金取立等を取扱っております。

5. 附帯業務

(1) 代理及び媒介 信金中央金庫

(2) 代理業務 日本銀行歳入代理店、地方公共団体の公金取扱業務、(株)日本政策金融公庫、
(独)住宅金融支援機構等の代理業務ほか多数

(3) 保護預り及び貸金庫業務

(4) 債務の保証

(5) 公共債の引受

(6) 国債等公共債及び投資信託の窓口販売

(7) 保険商品の窓口販売(保険業法第275条第1項により行う保険募集)





概要

設 立	昭和24年9月8日
本 店	福岡県遠賀郡水巻町埴末北4丁目6番18号
本 部	福岡県遠賀郡岡垣町東山田2丁目3番3号
店 舗 数	15店舗
会 員 数	16,679名
会員勘定	17,074百万円

■出資（平成27年3月31日現在）

出資1口の金額	500円
会員の出資の最低限度額	5,000円

■ 会 員 数 (平成27年3月31日現在)

個 人	13,960先
法 人	2,719先
合 計	16,679先

■出資に対する配当率

平成24年度	年率	8%
平成25年度	年率	8%
平成26年度	年率	8%

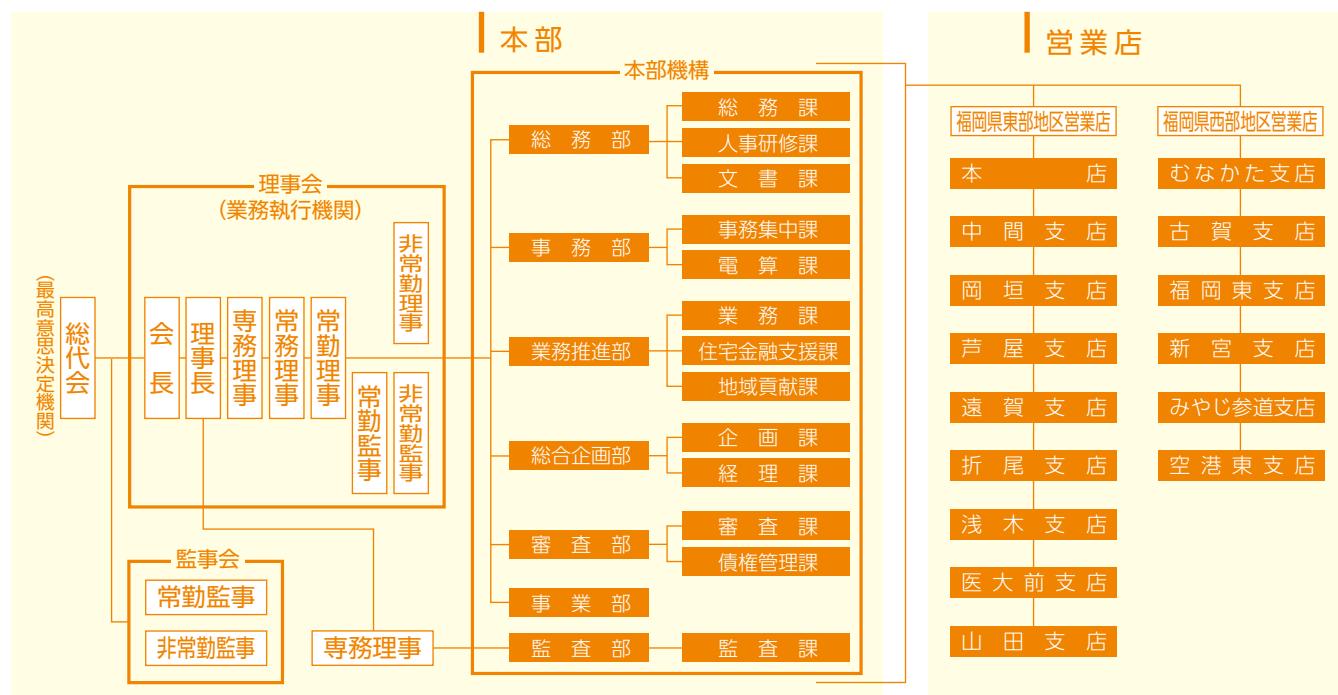
役員

会 長	中村 英隆
理 事 長	岡部 憲昭
専務理事（審査部長委嘱・事務部担当）	梶栗 隆治
常務理事（業務推進部担当・事業部担当）	島津 政充
常務理事（総務部長委嘱）	岩崎 英生
常勤理事（総合企画部長委嘱）	小西 憲次
常勤監事	久野 哲生
非常勤理事	神村 幸彦
非常勤監事（員外監事）	安高 直彦

※1 理事の神村幸彦は、信用金庫業界の「総代会の機能向上策等に関する業界申し合わせ」に基づく職員外理事です。

※2 監事の安高直彦は、信用金庫法第32条第5項に定める員外監事です。

組織図

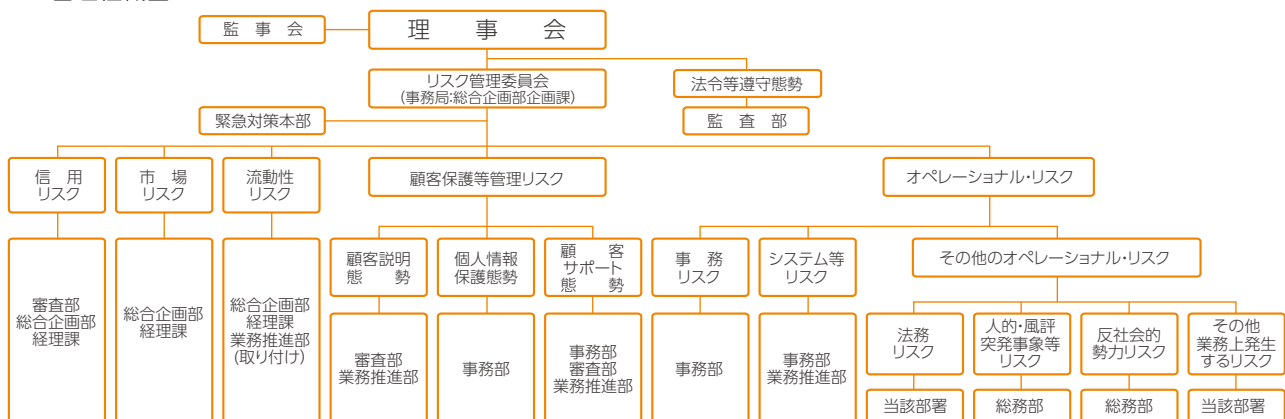


リスク管理の態勢

(1) 平成27年度のリスク管理基本方針

- ① リスク管理を経営の最重点課題と位置付ける。本部・各営業店においては、事業の遂行に伴う各種リスクの存在を認識し、リスクを体力に見合った適正な水準に管理しつつ、収益力の強化を図る。統合的リスク管理の視点から、身の丈にあったリスク総量の把握・管理手法の定着に努める。
- ② 反社会的勢力による圧力に対しては、断固としてこれを排除し、公器である金融機関として相応しい毅然たる対応を行う。また、反社会的勢力についての情報収集に努める。
- ③ BCP(事業継続計画)の周到な準備を行う。地震・台風等の自然災害、新型インフルエンザの発生等、業務継続が困難となる事態を想定し、緊急時の連絡網の態勢整備等、不断の備えを行う。
- ④ 顧客保護のため、説明責任を十分に認識し行動する。相談・苦情対応の充実に引き続き注力する。また、その結果を利用者利便の向上に資する。
- ⑤ 融資面においては、「中小企業者等に対する金融の円滑化を図るための臨時措置に関する法律」(中小企業金融円滑化法)の終了後も引き続き経営改善計画の進捗状況の管理および必要な経営改善指導等について継続的に取り組んでいく。
投資信託や保険商品については、商品を勧めるお客様の適合性および商品が有するリスクの説明方法について十分に留意するとともに、販売後の十分なアフターフォローが不可欠であることを認識し、顧客への販売後の管理状況に十分に留意する。
- ⑥ 振り込み詐欺、偽造キャッシュカード等による金融犯罪の未然防止に注力する。犯罪収益移転防止法を踏まえ、取引時確認、疑わしい取引の届出を適切に行う。当金庫の預金口座が振り込み詐欺に利用された場合またはその恐れがある場合は、直ちに凍結するとともに、振り込み詐欺被害者救済法等に則り迅速に対応する。キャッシュカードの偽造・盗難あるいは預金通帳などにより被害が発生した場合は、預金者保護法に則り、迅速かつ適切な補償に努める。二重電話詐欺被害撲滅、特に高齢者の詐欺被害防止に向けて警察の防犯対策に協力する。
- ⑦ 金庫本部および営業店の防犯態勢を堅持する。
- ⑧ 不祥事件の防止に向けて、職場内のコミュニケーションを良くし、さらにコンプライアンス態勢を充実させるために、不断の努力を継続する。
- ⑨ 内国為替業務の障害対応については平成20年2月25日に発生した信金業界の大規模為替障害事故、平成22年3月31日に発生した内国為替制度の仕向超過限度額にかかるシステム障害を教訓として、常にシステム障害の危機意識を保有し、態勢整備や訓練等の危機管理にあたることとする。
- ⑩ 平成25年4月にしんきん共同センターが設立され、平成26年4月には全国7つの共同センター(九州センター含む)が統合された。今後とも信金共同オンラインシステムの運用管理において当金庫業務に支障の無いように留意する。

(2) リスク管理組織図



コンプライアンスの態勢

■ 平成27年度のコンプライアンス基本方針

- ① 当金庫はコンプライアンスを経営の最重要課題のひとつと位置づけ、理事長自ら率先垂範するとともに、強いリーダーシップを発揮し、コンプライアンスのより一層の充実・強化を図る。
- ② 当金庫は高い公共性を有しており、地域の中小企業と住民のための協同組織金融機関として、より高い倫理観をもったコンプライアンスの実現のため、役職員は「遠賀信用金庫倫理綱領」、「コンプライアンス規定」を遵守し、コンプライアンス重視の企業風土を醸成する。
- ③ コンプライアンスの関連するリスク管理については、別に定める「コンプライアンス・プログラム」により取組む。

金融ADR制度への対応

■ 苦情処理措置

当金庫は、お客様からの苦情のお申し出に公正かつ的確に対応するため業務運営体制・内部規定を整備し、その内容をホームページ、パンフレット等で公表しています。

苦情は、当金庫営業日(9時～17時)に営業店(電話番号は19, 20ページの「店舗紹介」を参照)または、「暮らしのあんしんコーナー」(フリーダイヤル)0120-8181-041にお申し出ください。

■ 紛争解決措置

当金庫は、紛争解決のため、当金庫営業日に上記「暮らしのあんしんコーナー」または「全国しんきん相談所」(9時～17時、電話:03-3517-5825)にお申し出があれば、天神弁護士センター(電話:092-741-3208)、北九州法律相談センター(電話:093-561-0360)、東京弁護士会紛争解決センター(電話:03-3581-0031)のほか、お客様のアクセスに便利な弁護士等の仲裁センター等にお取次ぎいたします。また、お客様から弁護士会に直接申し出いただくことも可能です。



シュウタス

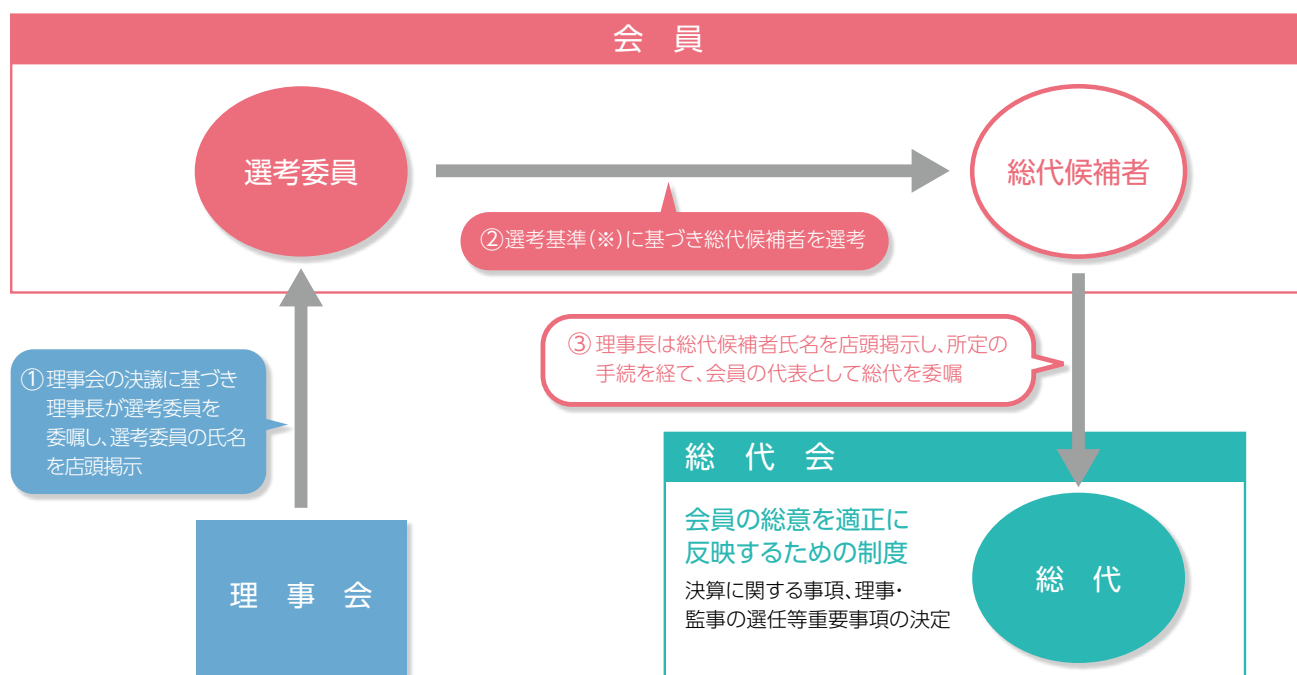
総代会について

総代会制度について

信用金庫は、会員同志の「相互信頼」と「互恵」の精神を基本に、会員一人一人の意見を最大の価値とする協同組織金融機関です。したがって、会員は出資口数に関係なく一人一票の議決権を持ち、総会を通じておんしんの経営に参加することとなります。しかし、会員数がたいへん多く総会の開催は事実上不可能であるため、おんしんでは、会員の総意を適正に反映し充実した審議を確保するため、総会に代えて総代会制度を採用しております。

総代会は、決算、取扱業務の決定、理事・監事の選任等の重要事項を決議する最高意思決定機関です。したがって、総代会は、総会と同様に会員一人一人の意見がおんしんの経営に反映されるよう、会員の中から適正な手続により選任された総代により運営されます。

また、おんしんでは総代会に限定することなく、日常の事業活動を通じて総代や会員とのコミュニケーションを大切にし、さまざまな経営改善に取り組んでおります。



※総代候補者選考基準

- | | | |
|--------|-------------------------------|-------------------------------------|
| ① 資格要件 | ・ 当金庫の会員であること | |
| ② 適格要件 | ・ 総代として相応しい見識を有していること | ・ 行動力があり、積極的な人 |
| | ・ 見識をもって正しい判断ができる人であること | ・ 人格、識見に優れ、おんしんの発展に寄与できる人 |
| | ・ 地域における信望が厚く、総代として相応しい人であること | ・ おんしんの理念・使命をよく理解し、金庫との緊密な取引関係を有する人 |
| | ・ 地域での居住年数が長く、人縁関係が深い人 | |

第66期通常総代会決議事項

平成27年6月17日に開催された第66期通常総代会において以下のとおり報告・決議されました。

- I. 報告事項
 - 第66期業務報告の件、第66期貸借対照表及び損益計算書の内容報告の件
- II. 決議事項
 - 第1号議案 第66期剰余金処分案承認の件
 - 第2号議案 定款の一部変更の件
 - 第3号議案 退任役員に対する退職慰労金贈呈の件

総代とその選任方法

(1) 総代の任期・定数

- ①総代の任期は3年です。
- ②総代の定数は120人で、会員数に応じて5つの選任区域ごとに定められています。

(2) 総代の選任方法

- ①会員の中から総代候補者選考委員を選任する。
- ②その総代候補者選考委員が総代候補者を選考する。
- ③その総代候補者を会員が信任する。
(異議があれば申し立てる)

<総代の属性別構成比>

職業	法人役員	85.3%
	個人事業主	13.8%
	個人	0.9%

年齢	40代	10.3%
	50代	22.4%
	60代	60.3%
	70代以上	6.9%

業種	建設業	16.5%
	製造業	9.6%
	運輸・運送業	7.0%
	卸・小売業	19.1%
	不動産業	13.0%
	サービス業	15.7%
	教育・医療・福祉	7.8%
	その他	11.3%

幹事総代について

平成16年度から、会員の意見や要望をより一層金庫の経営に反映させるとともに、金庫の経営方針などを伝達することを目的として、総代の中から5名の方に幹事総代を委嘱しております。幹事総代の任期は一般総代と同じ3年で、年2回(8月、12月)、役員との定期意見交換会が開催されます。

幹事総代の氏名(敬称略、順不同)

(平成27年6月30日現在)

中村 光雄	柳 潤一	大富 政明	藤田 英夫	占部 康行
				

総代の氏名(地区別、敬称略、順不同)

1. 遠賀郡水巻町、芦屋町(22名)

今井 恒夫(6)	江上 壮輔(3)	岡田 邦夫(3)	佐々木 誠治(2)	白石 雄二(6)	白土 治靖(2)
末岡 廣敏(6)	鈴鹿 勝利(6)	徳永 弥太郎(6)	芳賀 隆幸(6)	本田 憲輔(6)	松岡 功峻(4)
粕井 幸雄(2)	渡部 利彦(6)	上村 定紀(5)	川原 良一(4)	佐藤 暢男(4)	品川 一伯(6)
縄田 秀(5)	本田 孝志(2)	山元 昭比古(4)	横田 恭二(6)		

2. 遠賀郡遠賀町、岡垣町(25名)

内村 幹夫(6)	江頭 實(6)	織田 隆徳(2)	熊井 茂男(2)	佐伯 重義(6)	中司 清次(4)
中村 光雄(4)	福田 秀徳(3)	松井 力(6)	三浦 知洋(3)	村尾 啓介(3)	秋武 慎介(4)
伊東 秀夫(3)	太田 信博(1)	兼光 達守(4)	川地 啓輔(1)	小役丸 秀一(6)	竹中 知嘉子(1)
都留 正泰(6)	中村 樹里(6)	深田 高一(3)	藤川 勇(2)	松本 正登(6)	山形 哲也(5)
吉村 澄雄(3)					

3. 北九州市、中間市(24名)

赤瀬 朗(4)	今村 重記(6)	占部 雅志(1)	佐竹 真人(2)	堤 透(1)	野添 好弘(2)
松村 豊(4)	森 政喜(4)	高山 良二(1)	春田 直登(1)	廣田 祐之(4)	松尾 隆(2)
宮内 覺(3)	三好 正孝(6)	安部田 力(6)	石田 裕一(6)	山藤 清(6)	高亀 勝(3)
竹内 稔(3)	永露 勇二(6)	花田 匡英(3)	日高 教夫(2)	冷牟田 恭二(1)	柳 潤一(6)

4. 宗像市、福津市(22名)

天野 龍二(3)	市来 道啓(4)	出光 良治(4)	今村 勇美(3)	占部 康行(6)	古賀 兼吉(3)
塚本 喜代志(1)	中村 好成(1)	花田 省蔵(1)	古野 進(1)	森 正彦(6)	大和 一弘(2)
吉武 大作(1)	東 謙太郎(3)	阿部 良次(5)	石津 克信(3)	沖 祐一(3)	小野 一昭(2)
浄見 讓(3)	高島 亮一(3)	宮脇 一彦(1)	米満 喬(1)		

5. 福岡市、古賀市、新宮町、粕屋町、他地区(23名)

穂吉 末勝(6)	大富 政明(6)	加野 豊子(4)	古場 裕典(4)	白石 晃一郎(2)	高橋 加代子(1)
長崎 浩一(4)	長崎 秀人(3)	林 直人(1)	矢野 喜代吉(1)	上田 稔(4)	梅津 誠(2)
浦上 貞幸(2)	久保田 龍男(1)	中村 宣博(4)	村尾 好明(4)	安河内 清隆(4)	阿部 誠(4)
藤田 英夫(5)	三坂 真(2)	宮本 和明(1)	新島 洋(1)	吉弘 直彦(3)	

※()内の数字は平成10年以降の就任回数を表します。

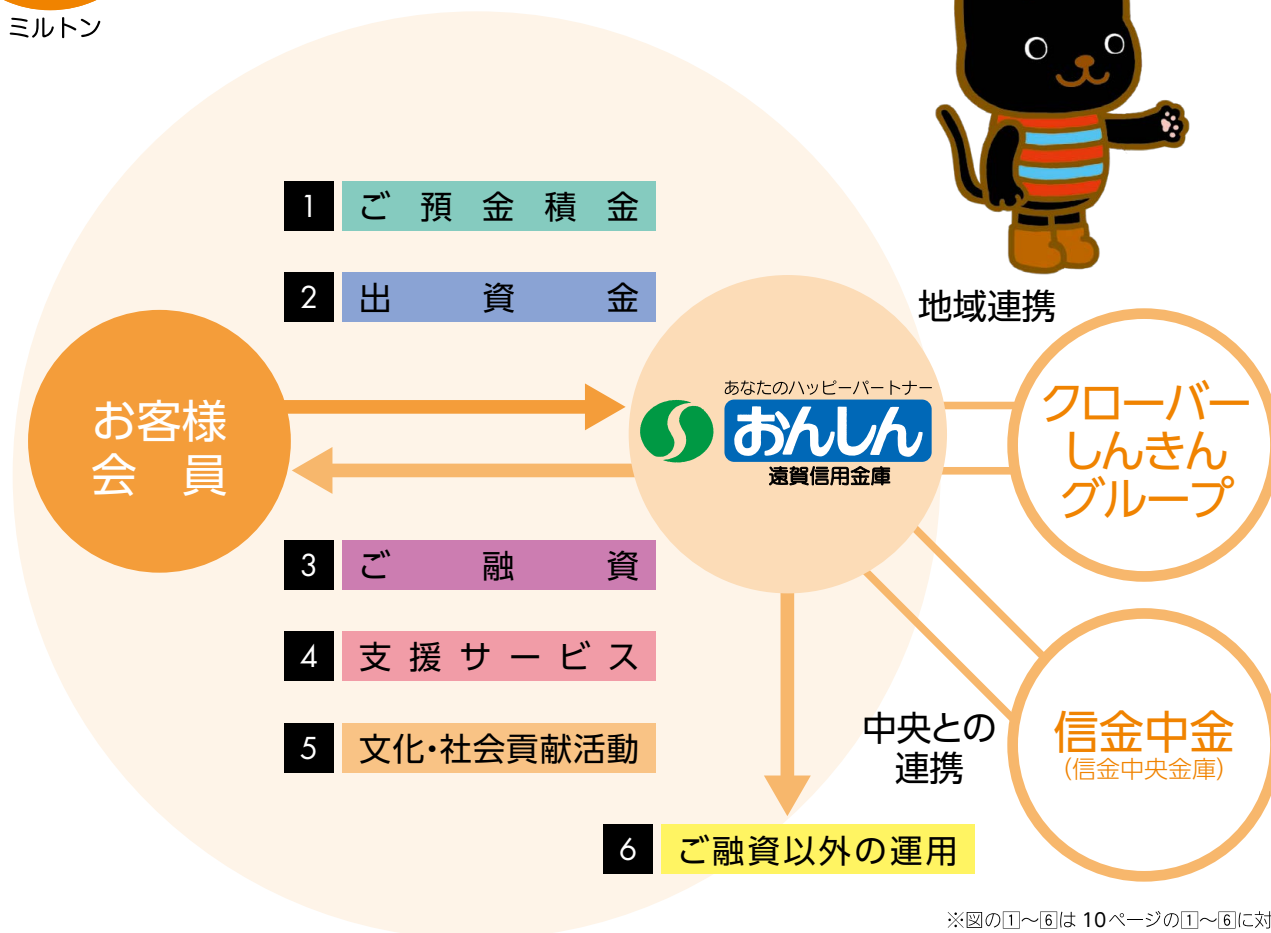
(以上116名、平成27年6月30日現在)



おんしんと地域社会



ミルトン



※図の①～⑥は 10 ページの①～⑥に対応します。

信用金庫・信金中央金庫とおんしんについて

信用金庫は銀行とほぼ同じ業務を行っていますが、銀行のように株式会社ではなく、より密着したサービスを行うため営業地域が定められ、会員の皆さまからの出資金を元手とした地元のための協同組織金融機関です。皆さまからお預りした大切なご資金(預金や積金)は、地元で資金を必要とする皆さまへご融資として事業や生活繁栄のお手伝いをするとともに、地域の一員として、中小企業者や住民の皆さまと強い絆で結ばれたネットワークを形成して地域経済の発展に努めております。

信金中央金庫(信金中金)は、全国の信用金庫の出資により設立された信用金庫の中央金融機関です。全国の信用金庫から預け入れられた資金や、金融債を発行して調達した資金を、有価証券や短期金融市場、さらには国・地方公共団体、事業会社等への貸出やPFI事業への取組み等によって運用し、その成果を種々の形で信用金庫業界に還元しています。

また、為替・資金の集中決済や信用金庫の業務機能の補完を行うほか、業界のセーフティーネットを運営することにより、業界の信用力の維持・向上に努めています。

全国には267の信用金庫があり(平成27年6月末現在)、おんしんもその1つです。経営基本方針に掲げたように「お客様の役に立つ金融機関」「お客様から選ばれる金融機関」「地域のベスト金融機関」を目指して、おんしんは金融機能のみにとどまらず、文化、環境、教育なども視野に入れて、地域社会の活性化に積極的に取り組んでまいります。

 P3「経営理念」「経営の基本方針」をご覧ください。

おんしんの営業地域

昭和24年に遠賀郡水巻町で産声を上げたおんしんは、北九州市八幡西区から福岡市東区・糟屋郡粕屋町までJR鹿児島本線と国道3号線の沿線にエリアを広げて営業しており、15の店舗で皆さまをお待ちしています。

定款で定められたおんしんの営業地域は、15の店舗周辺地域はもとより、「クローバーしんきんグループ」(遠賀、飯塚、田川、福岡)の総合力を発揮して、良質かつ高度な金融サービスを提供し、県内他金庫との協調融資等の案件にも柔軟に対応できるよう、平成24年7月3日に認可を受け『福岡県内一円』といたしております。

おんしんの役職員は店舗周辺地域内に居住し、公私ともに皆さまと密接にお付き合いをさせていただいております。

 P19・20「店舗紹介」をご覧ください。

地域と共に生きる“おんしん”です

1 ご預金積金(地域からの資金調達)

平成27年3月末の預金積金残高は191,731百万円で、地域の皆さまからの預金により資金を調達しています。一般個人、事業法人のほか、地方公共団体からの預金もお預りしています。おんしんは、水巻町、遠賀町の指定金融機関も務めています。

🔍 P13「預金業務」およびP30「預金資料」をご覧ください。

2 出資金

個人会員13,960先、法人会員2,719先で出資総額は197百万円ですが、これに過去からの営業努力による積立金などが加わり、会員勘定は17,074百万円という厚さです。順調な業績を背景に平成19年3月期より年8%の配当とさせていただきます。

🔍 P5「会員」P7・8「総代会について」P22「会員勘定」をご覧ください。

3 ご融資(地域への資金供給)

平成27年3月末の融資残高は117,855百万円となりました。「地元経済に対する貢献度の目安」といわれる預貸率(期末残高ベース)は61.46%となっており、業界平均を上回る水準にて、地域の皆さまへ安定した資金を供給しています。また、信金中央金庫などによる代理貸付の残高である債務保証は、248百万円となっています。

🔍 P13「貸出金業務」P28・29「貸出金等資料」、「預貸率」をご覧ください。

4 支援サービス(お取引先への支援)

平成16年度より、融資先の経営改善支援に全店を挙げて取組んでおります。

■経営改善支援の取組み実績(平成26年4月～平成27年3月)

(単位:先数、%)

	期初 債務者数	経営改善支援 取組み先数	債務者区分が ランクアップした 先数	債務者区分が 変化しなかった 先数	債務者区分が 再生計画を 策定した先数	経営改善 支援 取組み率	ランクアップ 率	再生計画 策定率
	A	α	β	γ	δ	α/A	β/α	δ/α
正常先	4,699	1		0	0	0.02		0.00
要 注意先								
その他要注意先	345	13	1	12	13	3.77	7.69	100.00
要管理先	0	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00
破綻懸念先	37	4	0	4	4	7.55	0.00	100.00
実質破綻先	83	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00
破綻先	41	0	0	0	0	0.00	0.00	0.00
合 計	5,205	18	1	16	17	0.35	5.56	94.44

5 文化・社会貢献活動

秋のおんしん講演会(響ホール室内合奏団、三遊亭歌之介師匠)、マナー研修会、ロビー展などの開催をはじめ、大ホール・会議室・ギャラリーなどのご提供や、おみこし、お祭りグッズの貸出し、清掃活動、献血活動のほか各種イベントへの参加・協賛など、幅広く皆さまとお付き合いをさせていただいております。業務推進部に設けた地域貢献課が「暮らしのあんしんコーナー」を担当しております。

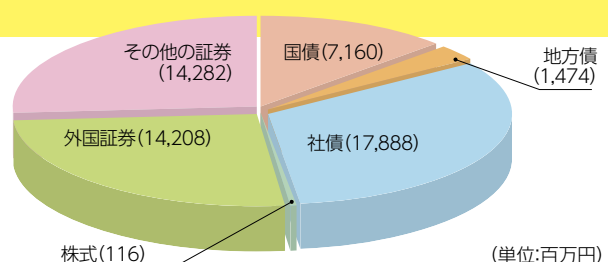
🔍 P14「暮らしのあんしんコーナー」P15・16「ふれあいトピックス」をご覧ください。

6 ご融資以外の運用

お預りした資金は、融資のほか急な払出しに対する備えや、収益の補完を目的として余裕資金運用を行っています。代表格である有価証券残高は55,131百万円で内訳は右のグラフのとおりです。

🔍 P31「有価証券資料」をご覧ください。

●平成26年度の財務諸表についてはP22～26をご覧ください。





おんが創業支援協議会の設立について

平成27年2月12日、遠賀信用金庫は、遠賀郡4町、遠賀郡4商工会および日本政策金融公庫八幡支店と、創業支援体制を整備することを目的に、「おんが創業支援協議会」の設立に関する協定書を締結しました。

「おんが創業支援協議会」の設立により、官民一体となったワンストップの創業支援体制が整備されることになります。また、この協議会には、福岡財務支局、九州経済産業局、中小企業基盤整備機構九州本部、地域経済活性化支援機構、信金中央金庫、福岡県商工部がオブザーバーとして参加し、国ベースの支援策や信用金庫の全国ネットワークも積極的に活用することとしています。

なお、4つの町が合同することで、創業希望者により多くの創業場所の選択肢を提供出来るとともに、おんが地域以外の創業希望者に対してもおんが地域での創業のメリットを広くアピールすることが出来ると考えています。

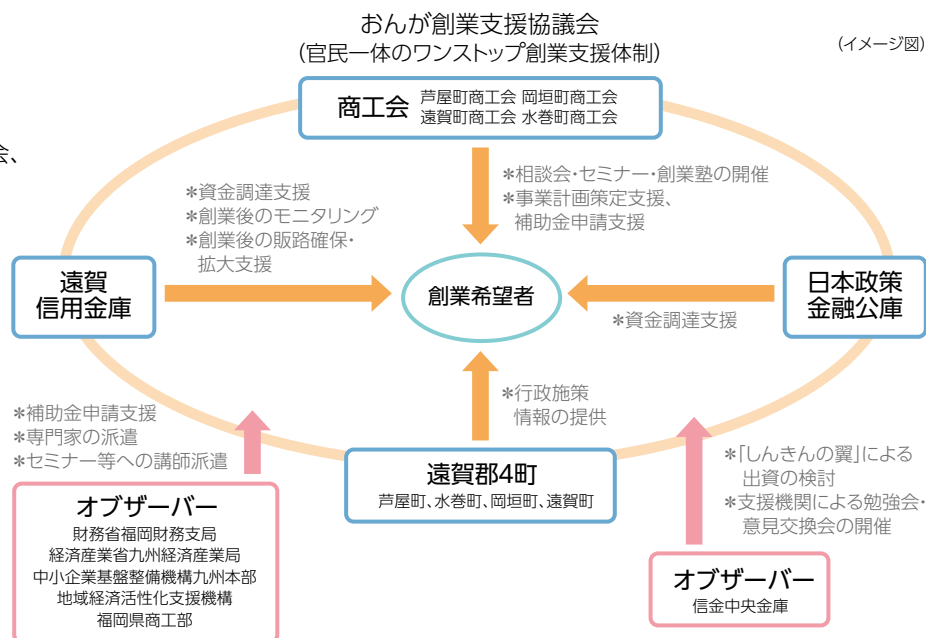


1. 協議会の体制

- 行政機関: 芦屋町、水巻町、岡垣町、遠賀町
- 商工会: 芦屋町商工会、岡垣町商工会、遠賀町商工会、水巻町商工会
- 日本政策金融公庫八幡支店
- 遠賀信用金庫

(オブザーバー機関)

- 財務省福岡財務支局
- 経済産業省九州経済産業局
- 中小企業基盤整備機構九州本部
- 地域経済活性化支援機構
- 信金中央金庫
- 福岡県商工部



2. 創業支援の内容

- (1) 創業に関する相談会の開催 (2) 創業セミナーの開催 (3) 創業塾の開講 (4) 個別相談への支援

3. おんしん創業支援ローン

平成27年5月1日「おんしん創業支援ローン」の発売を開始。資金使途は創業に関する資金(設備資金、運転資金)で、融資金額1,000万円以内、融資期間10年以内、融資金利は短期プライムレート連動の0.95%(平成27年5月1日現在)となっており、保証協会信用保証制度「創業関連保証」を利用します。お気軽におんしん窓口へご相談ください。

金融円滑化法期限到来後の当金庫の取組み状況

中小企業金融円滑化法は平成25年3月末をもって終了しましたが、法終了後も当金庫は、「地域金融円滑化のための基本方針」に基づき、地域金融の円滑化に全力を傾注して取り組んでおります。

下表は、平成27年3月31日現在の取組状況です。

(単位:件、百万円)

		相談	実行	謝絶	取下げ	審査中
事業資金	件数	676	611	17	44	4
	金額	15,923	14,760	713	353	97
住宅資金	件数	126	112	5	9	0
	金額	1,152	1,030	37	85	0

(注) 1. 事業資金、住宅資金別に貸付けの条件の変更等を受けた貸出債権の件数・金額を集計しました。
2. さらに詳しい内容は当庫ホームページをご覧ください。

地域密着型金融推進項目とその進捗状況について（平成26年度）

項 目	具体的な施策	平成26年4月～平成27年3月の実績
1. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献		
地域共生店舗の展開	どなたでも気兼ねなく使えるトイレ、地域の皆様の作品を展示できるギャラリー、休日も稼働する貸金庫、「暮らしのあんしんコーナー」（何でも相談コーナー）の設置など、気楽にお立ち寄りいただき皆様のふれあいの場となる店舗作りに努めます。	「暮らしのあんしんコーナー」では、1,010件のご相談をお受けいたしました。
事業活動への支援・多彩な資金ニーズへの対応	地域の企業活動や事業継承を支援するため、企業の資金需要や各種の相談にきめ細かく応じてまいります。また、地域の個人の皆様の資金需要にも対応し、多重債務問題解決の一助ともなるよう消費者ローンの態勢を強化します。	個人事業者・法人役員向けローン「社長のお財布」を発売し、238件436百万円のご利用をいただきました。
音楽会、講演会、旅行等の企画	「マナー研修会」、「おんしん講演会」、「おんしんふれあい旅行」など、地域の方々が集い楽しんでいただける行事を企画いたします。	「マナー研修会」に141名の方に参加いただきました。「おんしん講演会」に約2,000名をお招きいただきました。「おんしんふれあい旅行」に356名の方に参加いただきました。
特色のある商品の提供	おんしんで新規に公的年金をお受け取りいただいたお客様を対象とした「ウェルカムおむすび定期」など、地域の皆様の期待にお応えする商品を提供します。	「ウェルカムおむすび定期」は、718件532百万円を募集しました。
金庫経営の安定性強化	地域経済へ持続的に貢献するため、金庫の財務の健全性、経営の安定性に更に努めます。今後とも2桁の自己資本比率を維持します。	平成26年度の自己資本比率は14.95%となり、国内基準の4%を大きく上回っています。
2. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援		
企業再生・経営改善活動の推進	経営的な困難に直面している企業を重点取組み先として選定し、事業支援に取組みます。	各店1先を重点企業支援先として選定し、支援取組みしております。
創業・新事業支援の継続	地域企業の新規事業について息長く支援していきます。	創業資金として15件137百万円を取組みました。
事業継承支援活動	企業経営者の高齢化により、事業の円滑な継承が地域の経済にとって重要な課題となっています。法務、税務等の専門家と連携し、支援活動に取組みます。	
不良債権比率の改善	企業支援、債権管理の充実により、不良債権に積極的に取組み、引き続き不良債権比率の改善に努めます。	平成26年度の不良債権比率は4.42%と、前年度より0.75%低下しました。
3. 事業価値を見極める融資をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底		
不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資の推進	ABL・動産担保の活用による融資等を推進します。	ABL1件50百万円を取組みました。また、信金中央金庫との提携による動産担保融資の取扱いを行っています。
新形態の融資の推進	実績のあるシンジケートローン・ノンリコースローンをお客様のニーズに合わせて取組みます。	

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組み状況

■中小企業の経営支援に関する取組み方針・体制整備

中小企業円滑化法は、平成25年3月末日に適用期限が到来しましたが、期限到来後も、当金庫の地域金融円滑化のための基本方針は従来と何ら変更はありません。

なお、当金庫はコンサルティング機能強化のため、中小企業経営力強化支援法に基づく「経営革新等支援機関」としての公的な認定を取得しました。また、福岡県中小企業診断士協会など外部専門機関との連携も積極的に行っております。

今後も、お取引先の立場に立って経営課題に応じた最適な解決策の提案など、経営改善の支援に努めてまいります。

これまで同様、当金庫の本支店窓口にお気軽にご相談ください。

■中小企業の経営支援に関する取組み状況

本部支援部署と営業店との連携のもと、お取引先に対して情報提供や財務面でのアドバイス、各種経営相談に応じています。また、緊急に経営改善を要すると考えられるお取引先（18先）をリストアップし、返済負担の軽減に対応するほか経営改善計画の策定支援や外部コンサルタントとの連携、新規取引先の紹介などを行いました。このような企業支援の取組みに対し、福岡財務支局より顕彰を受けました。

(1) 創業支援・新規開拓支援

創業資金として15件137百万円を取組みました。また、認定支援機関として13先の創業補助金の申請支援を行いました。

(2) 成長段階における支援

日本政策金融公庫との提携による農業分野向け融資の取扱いを開始しました。

(3) 経営改善・事業再生・業種転換等の支援

緊急に経営改善を要すると考えられるお取引先（18先）に対して、重点的に経営改善支援を行いました。



営業のご案内

ニーズに合わせた多彩な商品とサービス

フラップ

■ 預金業務

おんしんキャッシュカード

おんしんキャッシュカードは、おんしんの店舗や店外自動コーナーはもちろん、全国の金融機関やコンビニエンスストアに設置されたほとんどのATMでご利用いただけます。特に、平日の日中に他の信用金庫でご利用いただく場合には取扱手数料が無料になり大変お得です。また、デビットカードとしてもご利用いただけます。

大口定期預金

お預け入れ金額が1,000万円以上の定期預金です。

スーパー定期

「すえひろ定期」等、お得な金利の定期預金もご用意しております。

変動金利定期預金

半年毎に金利が変わる定期預金です。

定期積金

目標に向けて毎月一定の金額を積み立てていただくご預金です。ボーナス併用型もご用意しております。

■ 貸出金業務

一般貸出

事業者の方へ、運転資金、設備資金をご用立ていたします。低金利の制度融資もご用意しております。

住宅ローン

住宅新築、建売・中古住宅購入や増改築資金が利用できる住宅ローンのほか、(独)住宅金融支援機構との提携商品である「フラット35」の商品もそろえております。

消費者ローン

フリーローンおんがえし、カードローン、カーライフプラン、教育ローン等、ニーズに合わせてご利用いただけます。



■ 為替業務

国内為替

全国の金融機関へのお振込みやご送金、手形・小切手の取立てを行っております。

外国為替

信金中央金庫を通じ、海外へのご送金や海外からの資金の受取り、小切手等の取立てを行っております。

外貨両替

三井住友銀行を通じ、外貨の宅配を行っております。

■ その他の業務

国債

個人向け国債の窓口販売を行っております。

投資信託

豊富なラインナップをご用意しております。

保険商品

個人年金保険や一時払終身保険に加え、医療・がん保険も取扱っております。

貸金庫

大切な資産をお守りするため、お顔により本人を確認し全自動で休日もご利用いただける新しいタイプの貸金庫をご用意しております。

テレホンバンキング

フリーダイヤルにより、残高照会・入出金明細照会やお振込み等を承ります。

インターネットバンキング

インターネットを利用し、残高照会やお振込み、定期預金作成等を承ります。

モバイルバンキング

携帯電話による残高照会やお振込みを承ります。

クレジットカード

VISAカード、JCBカードの会員や加盟店の受付を行っております。



で皆さまを応援します。

「おんしん おむすび会」「暮らしのあんしんコーナー」などのご案内

平成25年5月に、おんしんで公的年金をお受け取りいただいているお客様を会員とする「おんしんおむすび会」が発足しました。

全体のイベントとして昨年は、おんしん講演会(宗像ユリックス)、今年は姫路城・高野山への2泊3日の旅行、また地域ごとのイベントとして「博多新劇」への観劇ツアー等を実施し、会員の皆さまとともに、当庫の役職員も、楽しい時間を過ごすことができました。

「おんしんおむすび会」の会員の皆さまには、たくさんの素敵な特典がございます。どうぞ、お気軽に皆さまのお近くの営業店の窓口にお声をかけてください。



おんしん おむすび会
イメージキャラクター
「おむすびくん」

●暮らしのあんしんコーナー

皆さまの生活に関するあらゆるご相談にお応えするのが、「暮らしのあんしんコーナー」です。各店の窓口のほか専用フリーダイヤル(※)によるご用命もお待ちしております。

※0120-8181-04(はいはいおんしん)



マグネット

●おんしんビジネスクラブ

地元企業の皆さまへ経営情報などをご提供するほか、講演会や経営セミナーも開催いたします。昨年11月の「おんしん講演会」には、響ホール室内合奏団、三遊亭歌之介師匠をお招きいたしました。

●各種相談業務

弁護士や税理士、社会保険労務士との提携による職員向け相談窓口「クイックレスポンス」を利用して、年金や相続・贈与、法人税、企業の後継者問題、法律に関するご相談に対し、迅速に情報を提供いたします。

●お祭りグッズの無料貸出し

皆さまにご利用いただける本格的漆塗りおみこしを本部に常設しています。かき氷機、ポップコーン機、わた菓子機もご用意しております。お気軽にお申し付けください。

クローバーしんきんグループの活動

「クローバーしんきんグループ」は、福岡・筑豊地区の4金庫(遠賀、飯塚、田川、福岡)を構成メンバーとして、平成22年6月1日に発足しました。

私たちは、加盟各金庫の独自性を尊重しつつ、相互の連携を深めていくことにより、1金庫ではなしえない総合的金融サービスも提供させていただき、地域の経済、社会に貢献することを目指しています。



■シンボルマーク

豊穡の象徴である四つ葉のクローバーと幸運の象徴であるてんとう虫で、4つの信用金庫とその連携・協力を表現。

《クローバーしんきんグループの取組み状況》

■商品の共同開発と販売

1 ペット保険

ペットの医療負担軽減のため「ペット保険」の取扱いを平成22年10月に開始し、継続募集を行っております。

2 協調融資

それぞれの金庫独自では応じがたい大規模の需要について、協調融資による対応を推進しています。

■合同研究会の定期開催

すでに開催しています「理事長意見交換会」、および各金庫の役員による「役員意見交換会」、各金庫の本部課長級職員による「業務研究会」に加え、現場レベルでの営業手法の共有化を目指し、各金庫の支店長による「支店長研究会」を定期的に開催しております。



ペット保険チラシ



地域の皆さまの笑顔が、私たちの喜びです。

ローバー

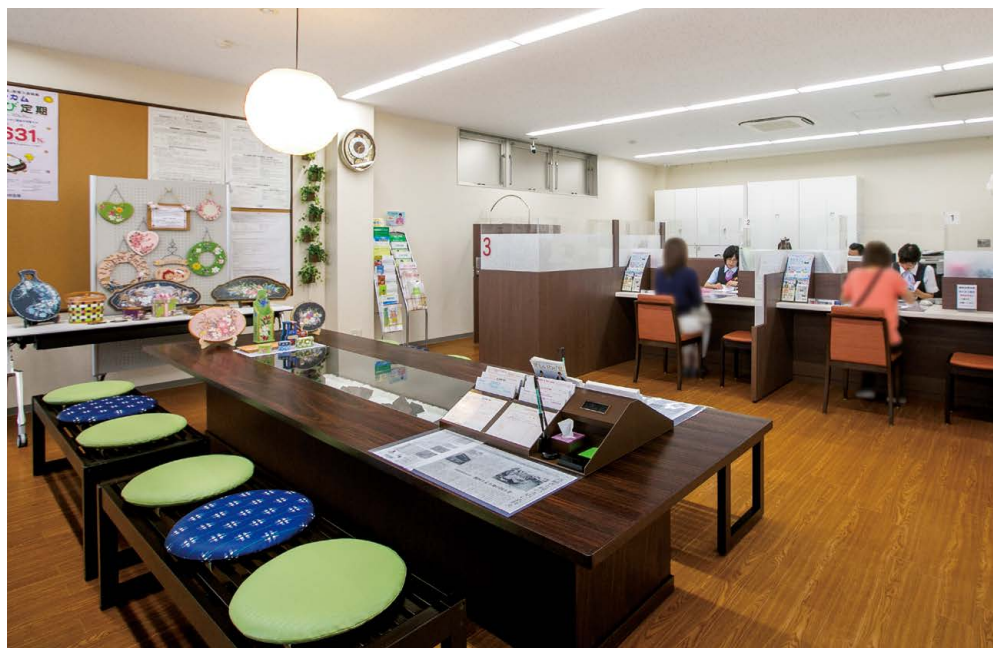
浅木支店のご案内

地域共生店舗の11号店として平成27年3月、遠賀町に浅木支店がリニューアルオープンしました。

焼き杉板を張ったような外観の店内には、お客様同士が気軽におくつろぎいただける囲炉裏風大型テーブルのほか、お客様専用トイレやミニギャラリーなどを配置しました。遠賀町との地域応援協定第1弾の「地域コミュニケーションを応援するモデル店舗」としても位置付けられています。



記載台兼用の囲炉裏風大型テーブルを配した店内



ATMコーナー(上)と
お客様専用トイレ(下)



お客様による
ギャラリーの作品

初の女性支店長となった浅木の松尾支店長(→写真、右から2人め)がTVQ九州放送の取材を受け、「Beyond 輝き WOMEN」の番組で放送されました。



「おんしんのホームページ」「おんしんの通信簿」などのご案内

■おんしんのホームページ

おんしんの情報や各種ローン、インターネットバンキングなどのサービスはもちろん、地域イベントなど生活に密着した情報満載。ぜひおんしんホームページにアクセスしてください。

<http://www.onshin.com/>

携帯からは

<http://www.onshin.com/new/mobile/>



スマートフォンからは

<http://www.onshin.com/sp/>



■おんしんの通信簿

「おんしんの通信簿」は、わかりやすい表現とデザインで、年4回、おんしんの業績や情報をタイムリーにお伝えします。



■えもときよひこ氏のご紹介

1951年北九州市生まれ。

岡垣町在住。

福岡教育大学大学院卒業。

日本美術家連盟会員。

(社)太平洋美術会美術会賞等受賞5回。

県立小倉・田川工業・折尾高校で教鞭を執る。その後、木版画家として、全国で個展を開催。幅広い支持が広がっています。



えもときよひこ氏デザインの

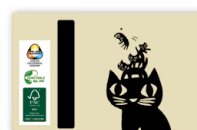
記念金貨図案

実物は直径26mm、重さ15.6g

東日本大震災復興事業を記念して発行される記念金貨のデザインに見事選ばれ、今年度中に発行の予定です。

■2015年カレンダー

えもときよひこ氏には、通帳のデザインのほか、2002年からおんしんカレンダーを作成いただいております。



総合口座通帳



定期預金通帳

■黒ネコ

「メチャくん」について



遠賀町在住の絵本作家さかいみるさんが描く黒ネコの「メチャくん」は、遠賀信用金庫（おんしん）のイメージキャラクターです。

■「絵本deえがお」プロジェクトを応援

おんしんのキャラクターデザインでおなじみのさかいみる夫妻が、平成23年から東日本大震災で被災した地域の子どもたちに絵本を贈り、夢と希望と一緒に届けている支援プロジェクトです。平成27年度もご賛同していただいた全国の方々からの支援を受け、第5作目を制作されています。おんしんは、この「絵本deえがお」プロジェクトを応援しています。今年は信金業界との結びつきを強め、東北の各信用金庫や信用金庫協会等の制作支援はもとより、被災地域配布先の細かな選定まで、被災地の信金ならではの力強い協力を得ています。

また、「絵本deえがお」の絵本「きみのこととってもすきさ」と「ありがとう」が総務省による被災地域情報化推進事業のひとつとして、国立国会図書館の東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」等との連携を通じて、宮城県震災デジタルアーカイブで公開、保存されることになりました。





デボじい マニ&セブ

「おんしん」この1年間の出来事

- 2014. 8 ■「世界一行きたい科学広場in宗像」共催 ①
宗像ユリックスに5,052名のご来場
- 福筑地区野球大会出場で優勝 ②
- おんしんSmileプロジェクト活動開始 ③

- 2014. 9 ■ 九州北部信用金庫協会野球大会出場

- 2014.10 ■ おんしんゴルフ大会
若松ゴルフ倶楽部に87名のご参加

- 2014.11 ■ おんしん講演会 ④
「おと&かたりの屋下がり2014」
宗像ユリックスに約1,650名のご来場
- おんしんゴルフ大会
ザ・クラシックゴルフ倶楽部に85名のご参加

- 2014.12 ■ 役職員ボウリング大会 ⑤

- 2015. 1 ■ 佐賀信用金庫サッカー部との交流試合 ⑥

- 2015. 2 ■ おんが創業支援協議会調印式

- 2015. 3 ■ 遠賀町と地域応援団協定の締結 ⑦
- 女性の大活躍推進宣言を採決
- 地域共生店舗11号店となる浅木支店オープン

- 2015. 4 ■ 第21回おんしんマナー研修会 ⑧
「魅力ある新入社員とは」147名参加
講師 インターナショナルアカデミー
永江静加社長
- 「おんしん おむすび会ふれあい旅行」開催 ⑨
姫路城・和歌の浦温泉・高野山・白浜温泉の
2泊3日の旅
198名のご参加

- 2015. 5 ■ おんがレガッタ大会 ⑩
役職員による5チームが出場

- 2015. 6 ■ 「信用金庫の日」献血活動
本部1Fロビーにて53名に協力いただき、
44名の献血、11名が骨髄バンク登録



「世界一行きたい科学広場in宗像」共催



福筑地区野球大会優勝



おんしん講演会「おと&かたりの屋下がり2014」



役職員ボウリング大会



佐賀信用金庫サッカー部との交流試合



地域応援団協定締結



第21回おんしんマナー研修会



おむすび会ふれあい旅行



おんがレガッタ大会出場

■おんしんのあゆみ

HISTORY

- | | |
|---------------|---|
| 昭和24年 (1949年) | 市街地信用組合法施行により「水巻信用組合」設立 |
| 昭和28年 (1953年) | 信用金庫法に基づき、「水巻信用金庫」へ組織を変更 |
| 昭和29年 (1954年) | 「遠賀信用金庫」に名称変更 |
| 昭和30年 (1955年) | 営業地域を遠賀郡一円に拡張 |
| 昭和34年 (1959年) | 全国信用金庫連合会(現・信金中央金庫)の代理業務取扱開始 |
| 平成7年 (1995年) | 本部を岡垣町に移転 |
| 平成9年 (1997年) | インターネットのホームページを開設 |
| 平成11年 (1999年) | テレホンバンキングのサービスを開始
投資信託の窓口販売を開始 |
| 平成12年 (2000年) | デビットカードのサービスを開始
携帯電話による振込・振替サービスを開始
「おんしんインターネットバンキング」のサービスを開始
「しんきんゼロネットサービス」を開始 |
| 平成13年 (2001年) | 保険の窓口販売を開始
Qネットサービスの取扱いを開始 |
| 平成14年 (2002年) | 「おんしんの通信簿」創刊 |
| 平成15年 (2003年) | 個人向け国債の取扱いを開始
地域共生店舗1号店となる岡垣支店をオープン |
| 平成16年 (2004年) | 地域共生店舗2号店となる本店をオープン |
| 平成17年 (2005年) | 医大前支店に顔認証付全自動貸金庫を導入
地域共生店舗3号店となる芦屋支店をオープン
地域共生店舗4号店となる福岡東支店をオープン |
| 平成18年 (2006年) | 6月 信用金庫PRコンクールにて「メチャカード」が信金中金理事長賞受賞 |
| 平成19年 (2007年) | 6月 地域共生店舗5号店となるみやじ参道支店をオープン |
| 平成20年 (2008年) | 6月 地域共生店舗6号店となる空港東支店をオープン
7月 地域共生店舗7号店となるむなかた支店をオープン |
| 平成21年 (2009年) | 7月 地域共生店舗8号店となる新宮支店をオープン |
| 平成22年 (2010年) | 4月 地域共生店舗9号店となる古賀支店をオープン
6月 「クローバーしんきんグループ」合意書署名式 |
| 平成23年 (2011年) | 3月 福岡財務支局より「地域密着型金融」への取組みに対し顕彰を受ける
5月 「第14回信用金庫社会貢献賞」受賞
6月 個人ローンの取組みが評価され金融担当大臣より顕彰を受ける
サマータイム導入 |
| 平成24年 (2012年) | 6月 えもときよひこ氏の作品が、東日本大震災復興事業を記念して発行される記念金貨のデザインに選ばれる
10月 岡部理事長就任
地域共生店舗10号店となる遠賀支店オープン |
| 平成25年 (2013年) | 5月 「おんしんおむすび会」発足
9月 第1期おんしん未来創世塾開講 |
| 平成26年 (2014年) | 2月 福岡財務支局より「外部専門家の派遣等による集中的な経営支援の取組」に対して顕彰を受ける
2月 初の女性支店長および女性課長登用
7月 第2期おんしん未来創世塾開講 |

「おんしん」のこの1年間の出来事(P17)へ続く



チャーリー

ネットワーク

ニーズに合わせた多彩な商品とサービス

店舗紹介

おんしんの15の店舗と本部をご紹介します。(掲載写真は東から西への順に並べております。)

おんしんでは、地域情報の発信やふれあいの場のご提供などさまざまな工夫をこらした「地域共生店舗」を展開しております。平成27年3月遠賀町地域共生店舗11号店となる浅木支店をオープン。さらに、12号店となる折尾支店を準備中です。

折尾支店



〒807-0834
北九州市八幡西区北鷹見町13-10
TEL (093) 603-2125

平成28年3月
リニューアルオープン予定
(北九州市八幡西区折尾1-14-6)

平成27年7月現在仮店舗営業中



岡垣支店



〒811-4235
遠賀郡岡垣町公園通り1-1-16
TEL (093) 282-0137

●店外自動コーナー
・イオン岡垣出張所

平成15年10月オープン



医大前支店



〒807-0874
北九州市八幡西区大浦1-11-18
TEL (093) 693-0401

平成7年10月オープン



山田支店



〒811-4292
遠賀郡岡垣町東山田2-3-3
TEL (093) 281-1500

平成8年9月オープン



本店



〒807-0022
遠賀郡水巻町埴末北4-6-18
TEL (093) 201-0034

●店外自動コーナー
・水巻町役場出張所
・吉田出張所
・梅ノ木出張所

平成16年8月オープン



遠賀支店



〒811-4303
遠賀郡遠賀町大字今古賀512
TEL (093) 293-0164

●店外自動コーナー
・遠賀川駅前出張所
・ゆめタウン遠賀出張所

平成24年10月オープン

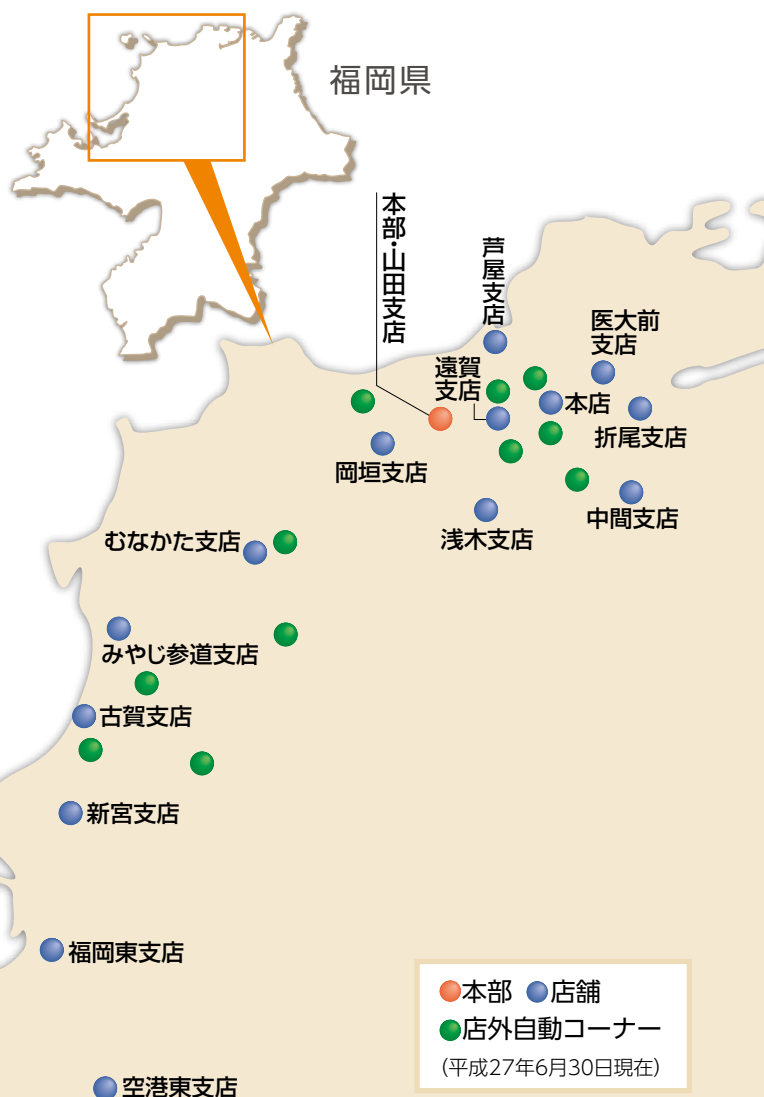


浅木支店



〒811-4312
遠賀郡遠賀町浅木2-12-1
TEL (093) 293-4151

平成27年3月オープン



で皆さまを応援します。



全自動貸金庫(顔認証)



ギャラリー



一般型貸金庫



お客様専用トイレ



芦屋支店

〒807-0101
遠賀郡芦屋町幸町1-13
TEL (093) 223-0631

平成17年7月オープン



空港東支店

〒811-2304
糟屋郡粕屋町大字仲原2704-1
TEL (092) 611-8611

平成20年6月オープン



中間支店

〒809-0030
中間市中央5-6-18
TEL (093) 245-0287

平成11年7月オープン



福岡東支店

〒813-0044
福岡市東区千早5-31-12
TEL (092) 662-3231

平成17年10月オープン



むなかた支店

〒811-3406
宗像市稲元4-1-1
TEL (0940) 32-3104
●店外自動コーナー
・サンリブくりえいと宗像出張所
・光岡出張所

平成20年7月オープン



本部

〒811-4292
遠賀郡岡垣町東山田2-3-3
TEL (093) 281-1501

平成7年11月オープン



みやじ参道支店

〒811-3305
福津市宮司2-1-53
TEL (0940) 52-1261
●店外自動コーナー
・イオンモール福津出張所

平成19年6月オープン



古賀支店

〒811-3101
古賀市天神4-1-23
TEL (092) 942-7171
●店外自動コーナー
・サンリブ古賀出張所
・古賀サービスエリア上り共同出張所

平成22年4月オープン



新宮支店

〒811-0111
糟屋郡新宮町大字三代905-11
TEL (092) 962-6631

平成21年7月オープン

ATMご利用案内

設置場所	店舗・店外コーナー名	平日	土曜日	日・祝日
北九州市	折尾支店	8:45~19:00	9:00~17:00	9:00~17:00
八幡西区	医大前支店	8:45~19:00	8:45~17:00	8:45~17:00
水巻町	本店	8:45~19:00	8:45~17:00	8:45~17:00
	梅ノ木※	8:45~19:00	8:45~17:00	8:45~17:00
	吉田※	8:45~19:00	8:45~17:00	*
	水巻町役場※	8:45~17:00	*	*
遠賀町	遠賀支店	8:45~19:00	8:45~17:00	8:45~17:00
	浅木支店	8:45~19:00	8:45~17:00	8:45~17:00
	ゆめタウン遠賀※	9:00~20:00	9:00~20:00	9:00~20:00
	遠賀川駅前※	8:45~19:00	8:45~17:00	8:45~17:00
岡垣町	岡垣支店	8:45~19:00	8:45~17:00	8:45~17:00
	山田支店	8:45~19:00	8:45~17:00	8:45~17:00
	イオン岡垣※	9:00~20:00	9:00~20:00	9:00~20:00
芦屋町	芦屋支店	8:45~19:00	8:45~17:00	8:45~17:00
中間市	中間支店	8:45~19:00	8:45~17:00	8:45~17:00
宗像市	むなかた支店	8:45~19:00	8:45~17:00	8:45~17:00
	サンリブくりえいと宗像※	10:00~20:00	10:00~19:00	10:00~19:00
	光岡※	8:45~19:00	8:45~17:00	8:45~17:00
福津市	みやじ参道支店	8:45~19:00	8:45~17:00	8:45~17:00
	イオンモール福津※	9:00~20:00	9:00~20:00	9:00~20:00
古賀市	古賀支店	8:45~19:00	8:45~17:00	8:45~17:00
	サンリブ古賀※	10:00~20:00	10:00~19:00	10:00~19:00
	古賀SA上り※	8:00~21:00	9:00~21:00	9:00~21:00
新宮町	新宮支店	8:45~19:00	8:45~17:00	8:45~17:00
粕屋町	空港東支店	8:45~19:00	8:45~17:00	8:45~17:00
福岡市	福岡東支店	8:45~19:00	8:45~17:00	8:45~17:00

※は店外自動コーナーを示す。

(平成27年6月30日現在)

資料編

記載金額は原則単位未満を切り捨て。

比率は原則小数点第3位を切り捨て小数点第2位までを表示しています。





ネッスル

貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部		2013年度	2014年度
現金	金	2,190	2,516
預け	金	41,344	36,921
買入金銭債権		—	—
金銭の信託		—	—
有価証券		44,056	55,131
国債		6,146	7,160
地方債		947	1,474
社債		16,007	17,888
株	式	379	116
その他の証券		20,574	28,491
貸出金		114,752	117,855
割引手形		1,278	1,249
手形貸付		2,452	3,392
証書貸付		108,445	110,196
当座貸越		2,575	3,016
その他の資産		1,366	1,097
未決済為替貸		42	39
信金中金出資金		589	589
前払費用		21	16
未収収益		276	246
その他の資産		436	206
有形固定資産		3,016	2,846
建物		1,404	1,441
土地		1,305	1,115
リース資産		15	12
建設仮勘定		—	—
その他の有形固定資産		291	276
無形固定資産		30	27
ソフトウェア		16	13
のれん		—	—
その他の無形固定資産		13	13
前払年金費用		—	55
繰延税金資産		—	—
債務保証見返		360	248
貸倒引当金		△ 4,116	△ 3,788
(うち個別貸倒引当金)		△ 3,695	△ 3,294
資産の部合計		203,001	212,911

(単位:百万円)

負債の部		2013年度	2014年度
預金	積金	183,852	191,731
当座預金		2,050	2,007
普通預金		67,560	71,590
貯蓄預金		60	35
通知預金		110	7
定期預金		108,449	111,906
定期積金		4,132	4,555
その他の預金		1,488	1,627
譲渡性預金		—	—
借入金		—	—
借入金		—	—
その他の負債		708	556
未決済為替借		56	46
未払費用		86	94
給付補てん備金		3	8
未払法人税等		293	171
前受収益		19	29
払戻未済金		0	0
払戻未済持分		0	0
職員預り金		102	99
リース債務		15	12
その他の負債		128	95
賞与引当金		85	83
役員賞与引当金		—	—
退職給付引当金		50	—
役員退職慰労引当金		165	143
その他の引当金		59	70
繰延税金負債		241	577
債務保証		360	248
負債の部合計		185,523	193,411
純資産の部		2013年度	2014年度
出資金		196	197
普通出資金		196	197
利益剰余金		15,699	16,876
利益準備金		192	196
その他利益剰余金		15,506	16,680
特別積立金		14,904	15,487
当期末処分剰余金		602	1,193
処分未済持分		—	—
会員勘定合計		15,896	17,074
その他有価証券評価差額金		1,582	2,424
評価・換算差額等合計		1,582	2,424
純資産の部合計		17,478	19,499
負債及び純資産の部合計		203,001	212,911

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



チャッピー

■損益計算書

(単位:千円)

損益の部	2013年度	2014年度
経常収益	4,989,446	5,049,082
資金運用収益	3,824,668	3,646,224
貸出金利息	2,634,104	2,632,660
預け金利息	190,099	131,370
有価証券利息配当金	982,681	864,471
その他の受入利息	17,782	17,721
役務取引等収益	344,292	363,262
受入為替手数料	140,174	146,537
その他の役務収益	204,118	216,724
その他業務収益	778,586	719,273
国債等債券売却益	740,962	680,346
国債等債券償還益	25,567	14,703
その他の業務収益	12,056	24,223
その他経常収益	41,899	320,322
貸倒引当金戻入益	-	135,312
償却債権取立益	718	370
株式等売却益	31,258	157,030
金銭の信託運用益	938	-
その他の経常収益	8,984	27,610
経常費用	3,865,995	3,442,110
資金調達費用	135,145	149,205
預金利息	131,418	143,257
給付補てん備金繰入額	3,218	5,426
譲渡性預金利息	-	-
借入金利息	-	-
その他の支払利息	508	521
役務取引等費用	422,011	432,685
支払為替手数料	51,893	55,651
その他の役務費用	370,117	377,033
その他業務費用	372,713	352,983
国債等債券売却損	12,858	89,055
国債等債券償還損	358,604	263,625
国債等債券償却	-	-
その他の業務費用	1,250	302
経常費用	2,457,075	2,485,187
人件費	1,539,057	1,517,007
物件費	876,135	922,561
税金	41,882	45,618
その他経常費用	479,049	22,048
貸倒引当金繰入額	300,820	-
貸出金償却	45	133
株式等売却損	144,963	-
株式等償却	-	-
金銭の信託運用損	-	-
その他資産償却	-	-
その他の経常費用	33,220	21,914
経常利益	1,123,450	1,606,972
特別利益	-	773
固定資産処分益	-	773
その他の特別利益	-	-
特別損失	1,774	186,384
固定資産処分損	1,774	186,384
減損損失	-	-
その他の特別損失	-	-
税引前当期純利益	1,121,676	1,421,361
法人税、住民税及び事業税	313,977	215,815
法人税等調整額	205,000	20,000
法人税等合計	518,977	235,815
当期純利益	602,698	1,185,545
繰越金(当期首残高)	144	7,922
当期末処分剰余金	602,843	1,193,468

■剰余金処分計算書

(単位:円)

科目	2013年度	2014年度
当期末処分剰余金	602,843,181	1,193,468,305
積立金取崩額	0	-
剰余金処分額	602,119,722	1,193,242,600
利益準備金	3,607,000	1,473,000
普通出資に対する配当金(8%)	15,512,722	15,769,600
特別積立金	583,000,000	1,176,000,000
繰越金(当期末残高)	723,459	225,705

■会計監査人による監査

貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分計算書については、信用金庫法第38条の2の規定に基づき、新日本有限責任監査法人の監査を受けております。

平成26年度における貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分計算書(以下、「財務諸表」という。)の適正性及び財務諸表作成に係る内部監査の有効性を確認しております。

平成27年6月17日

遠賀信用金庫

理事長

岡部 憲昭



貸借対照表の注記

- 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
- 有価証券の評価は、子会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券のうち時価のあるものについては決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
- 有形固定資産(リース資産を除く。)の減価償却は、定率法(ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く。))については定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。
建物 7年～50年
その他 3年～20年
- 無形固定資産(リース資産を除く。)の減価償却は、定額法により償却しております。なお、自金庫利用のソフトウェアについては、金庫内における利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。
- 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産の減価償却は、リース期間を耐用年数とした定額法によっております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。
- 貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下、「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下「実質破綻先」という。)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収

可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下、「破綻懸念先」という。)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は1,048百万円であります。

7. 賞与引当金は、職員への賞与の支払に備えるため、職員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。

8. 退職給付引当金は、職員の退職給付に備えるため、当該事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については期間定額基準によっております。なお、数理計算上の差異の費用処理方法は次のとおりであります。

数理計算上の差異 各発生年度の職員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定率法により按分した額を(それぞれ発生の日翌事業年度から)損益処理

9. 当金庫は、複数事業主(信用金庫等)により設立された企業年金制度(総合設立型厚生年金基金)に加入しており、当金庫の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、当該年金制度への拠出額を退職給付費用として処理しております。

なお、当該企業年金制度全体の直近の積立状況及び制度全体の拠出等に占める当金庫の割合並びにこれらに関する補足説明は次のとおりであります。

① 制度全体の積立状況に関する事項(平成26年3月31日現在)

年金資産の額	1,549,255百万円
年金財政計算上の給付債務の額	1,738,229百万円
差引額	△188,974百万円

② 制度全体に占める当金庫の掛金拠出割合(平成26年3月分)
0.1693%

③ 補足説明

上記①の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高210,459百万円(別途積立金21,485百万円により一部相殺)であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は期間16年10か月の元利均等定率償却であり、当金庫は、当事業年度の計算書類上、特別掛金85百万円を費用処理しております。

なお、特別掛金の額は、あらかじめ定められた掛金率を掛金拠出時の標準給与の額に乗じることで算定されるため、上記②の割合は当金庫の実際の負担割合とは一致しません。

10. 役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見込額のうち、当事業年度末までに発生していると認められる額を計上しております。

11. その他の引当金の計上方法は、以下のとおりであります。

(1) 睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り、必要と認める額を計上しております。

(2) 信用保証協会責任共有制度引当金は、信用保証協会への負担金の支払いに備えるため、将来の負担金支払見込額を計上しております。

12. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税込方式によっております。

13. 理事及び監事との間の取引による理事及び監事に対する金銭債権総額は、8百万円であります。

14. 子会社等の株式総額は、10百万円であります。

15. 子会社等に対する金銭債権総額は、一百万円であります。

16. 子会社等に対する金銭債務総額は、11百万円であります。

17. 有形固定資産の減価償却累計額は、2,485百万円であります。

18. 貸出金のうち、破綻先債権額は748百万円、延滞債権額は4,462百万円であります。

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

19. 貸出金のうち、3ヵ月以上延滞債権額は、一百万円であります。

なお、3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

20. 貸出金のうち貸出条件緩和債権額は、一百万円であります。

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該当しないものであります。

21. 破綻先債権額、延滞債権額、3ヵ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は5,210百万円であります。

なお、18.から21.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

22. ローン・パーティシペーションで、平成7年6月1日付日本公認会計士協会会計制度委員会報告第3号に基づいて、参加者に売却したものととして会計処理した貸出金の元本の事業年度末残高の総額は、710百万円であります。

23. 手形割引は、業種別監査委員会報告第24号に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は1,249百万円であります。

24. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産	
有価証券	142百万円
預け金	0百万円
その他の資産	13百万円
担保資産に対応する債務	
預金	155百万円

上記のほか、為替決済の取引担保として預け金(信金中央金庫への定期預金)9,000百万円、また短期の資金繰りの根担保として預け金(信金中央金庫への定期預金)4,500百万円を差し入れております。

25. 出資1口当たりの純資産額は49,261円32銭であります。

26. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当金庫は、預金業務、融資業務および市場運用業務などの金融業務を行っております。

このため、金利変動による不利な影響が生じないように、資産及び負債の適切な管理に努めております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当金庫が保有する金融資産は、主として事業地区内のお客様に対する貸出金です。

また、有価証券は、主に債券、投資信託及び株式であり、純投資目的及び事業推進目的で保有しております。これらは、それぞれ発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されております。

一方、金融負債は主としてお客様からの預金であり、流動性リスクに晒されております。

また、変動金利の預金についても、金利の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスクの管理



でんでん

当金庫は、融資事務取扱規定及び信用リスク管理規定等の諸規定に従い、貸出金について、個別案件ごとの与信審査、与信限度額、信用情報管理、保証や担保の設定、問題債権への対応など、与信管理に関する体制を整備し運営しております。これらの与信管理は、各営業店のほか審査部により行われ、また、定期的に経営陣による審査委員会や理事会を開催し、審議・報告を行っております。

さらに、与信管理の状況については、監査部がチェックしております。

有価証券の発行体の信用リスクなどに関しては、総合企画部において、余裕資金運用に係るリスク管理細則などに基づき日常的に信用情報や時価を把握するほか、定期的に資金運用会議に報告を行うことで管理しております。

② 市場リスクの管理

当金庫は、金利リスク、価格変動リスク、為替リスクなどの市場リスクについて、総合企画部において、余裕資金運用に係るリスク管理細則などに基づき日常的に計数を把握するほか、定期的に資金運用会議に報告を行うことで管理しております。

当金庫において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、「預け金」、「有価証券」のうち「債券」、「貸出金」、「預金積金」であります。当金庫では、これらの金融資産及び金融負債について、保有期間240日、過去5年の観測期間で計測される99パーセンタイル値を用いた時価の変動額を市場リスク量とし、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しております。

当該変動額の算定にあたっては、対象の金融資産及び金融負債を(固定金利群と変動金利群に分けて、)それぞれ金利期日に応じて適切な期間に残高を分解し、期間ごとの金利変動幅を用いております。

なお、当事業年度末現在、金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定した場合の99パーセンタイル値を用いた時価は、978百万円減少するものと把握しております。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数との相関を考慮しておりません。また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

③ 資金調達に係る流動性リスクの管理

当金庫は、総合企画部において、流動性リスク管理規定などに基づき、適時に資金管理を行うほか、資金調達手段の多様化、市場環境を考慮した長短の調達バランスの調整などによって、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

なお、金融商品のうち貸出金については、簡便な計算により算出した時価に代わる金額を開示しております。

27. 金融商品の時価等に関する事項

平成27年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります(時価の算定方法については(注1)参照)。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません((注2)参照)。

また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。

(単位:百万円)			
	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金	2,516	2,516	—
(2) 預け金	36,921	37,029	108
(3) 有価証券			
その他有価証券	55,104	55,104	—
(4) 貸出金(*1)	117,855		
貸倒引当金(*2)	△3,788		
	114,067	114,332	264
金融資産計	208,610	208,983	373
(1) 預金積金	191,731	191,802	70
金融負債計	191,731	191,802	70

(*1)貸出金の「時価」には、「簡便な計算により算出した時価に代わる金額」を記載しております。

(*2)貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(注1) 金融商品の時価等の算定方法

金融資産

(1) 預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金については、残存期間に基づく区分ごとに、新規に預け金を行った場合に想定される適用金利で割り引いた現在価値を算定しております。

(2) 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価格によっております。なお、保有目的区分ごとの有価証券に関する注記については、28. から30.に記載しております。

(3) 貸出金

貸出金は、以下の①～③の方法により算出し、その算出結果を時価に代わる金額として記載しております。

① 破綻懸念先債権、実質破綻先債権及び破綻先債権等、将来キャッシュ・フローの見積りが困難な債権については、貸借対照表中の貸出金勘定に計上している額(貸倒引当金控除前の額。以下「貸出金計上額」という。)の合計額から貸出金に対応する個別貸倒引当金等を控除した価額

② ①以外のうち、変動金利によるものは貸出金計上額

③ ①以外のうち、固定金利によるものは貸出金の種類及び期間に基づく区分ごとに、元金利息の合計額を同様の新規貸出を行った場合に想定される利率で割り引いた価額

金融負債

(1) 預金積金

要求払預金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。また、定期預金の時価は、一定期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、金融商品の時価情報には含まれておりません。

(単位:百万円)

区 分	貸借対照表計上額
子会社株式(*1)	10
非上場株式(*1)	16
出資金(*2)	590
合計	616

(*1)子会社株式及び非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。なお、このうち当事業年度において減損処理を行った金融商品ははありません。

(*2)出資金は、信金中央金庫、一般社団法人しんきん共同センターへ対するものです。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額は次のとおりであります。

(単位:百万円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
預け金(*)	22,500	3,440	—	1,000
有価証券	1,832	14,697	15,965	6,750
内 国 債	—	2,500	4,000	—
地 方 債	—	—	1,400	—
短期社債	—	—	—	—
社 債	400	7,136	9,515	300
その他	1,432	5,061	1,050	6,450
貸出金(*)	20,144	39,799	25,148	27,276
合 計	44,476	57,936	41,113	35,026

(*1)預け金及び貸出金のうち、期間の定めのないものは含まれておりません。

(注4) 預金積金の決算日後の満期到来額は次のとおりであります。

(単位:百万円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
預金積金(*)	110,215	5,824	25	44

(*)預金積金のうち、期間の定めのないものは含まれておりません。

28. 有価証券の時価及び評価差額等に関する事項は次のとおりであります。これらには、「国債」「地方債」「短期社債」「社債」「株式」「その他の証券」が含まれております。以下、30.まで同様であります。

その他有価証券 (単位:百万円)

	種類	貸借対照表計上額	取得原価	差 額
取得 原価を 超える もの	株式	11	7	3
	債券	26,202	25,847	354
	国 債	7,160	7,068	91
	地 方 債	1,474	1,443	31
	短期社債	—	—	—
	社 債	17,567	17,335	231
	その他	20,103	16,807	3,295
	小 計	46,316	42,663	3,653
取得 原価を 超えない もの	株式	78	89	△11
	債券	321	323	△2
	国 債	—	—	—
	地 方 債	—	—	—
	短期社債	—	—	—
	社 債	321	323	△2
	その他	8,388	8,735	△347
	小 計	8,787	9,149	△361
	合 計	55,104	51,812	3,292

29. 当事業年度中に売却したその他有価証券は次のとおりであります。

(単位:百万円)

	売却額	売却益の合計	売却損の合計
株式	424	157	—
債券	7,805	193	—
国 債	6,534	176	—
地 方 債	—	—	—
短期社債	—	—	—
社 債	1,270	17	—
その他	2,723	454	22
合 計	10,952	804	22

30. 減損処理を行った有価証券

その他有価証券で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込があると認められないものについては、当該時価を貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当事業年度の損失として処理(以下「減損処理」という。)を行います。当事業年度において減損処理を行った有価証券はありません。

31. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、36,334百万円であります。このうち契約残存期間が1年以内のものが6,672百万円であります。なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当金庫の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当金庫が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に(半年毎に)予め定めている金庫内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

32. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は、それぞれ以下のとおりであります。

繰延税金資産	
貸倒引当金	1,154百万円
減価償却費	11
その他	112
繰延税金資産小計	1,278
評価性引当額	△944
繰延税金資産合計	334
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	906
その他	5
繰延税金負債合計	911
繰延税金負債の純額	577百万円

33. 会計方針の変更

「退職給付に関する会計基準」等の適用

企業会計基準第26号「退職給付に関する会計基準」(以下、「退職給付会計基準」という。))及び企業会計基準適用指針第25号「退職給付に関する会計基準の適用指針」(以下、「退職給付適用指針」という。))を当事業年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込額及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当事業年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。この結果、当事業年度の期首の退職給付引当金が7百万円減少し、利益剰余金が7百万円増加しております。なお、当事業年度の経常利益及び税引前当期純利益への影響は軽微であります。

損益計算書の注記

- 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。
- 子会社との取引による収益総額 363千円
子会社との取引による費用総額 32,780千円
- 出資一口当たり当期純利益額 3,006円22銭





もんちゃん

■過去5年間の主要な経営指標の推移

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
(単位:千円) 経常収益	5,543,516	4,796,857	5,218,902	4,989,446	5,049,082
経常利益	800,476	760,765	794,913	1,123,450	1,606,972
当期純利益	339,313	425,246	486,066	602,698	1,185,545
(単位:百万円) 出資総額	188	190	192	196	197
(単位:千口) 出資総口数	376	381	385	392	395
(単位:百万円) 純資産額	14,563	14,936	17,477	17,478	19,499
総資産額(債務保証を含む)	186,051	194,211	198,702	203,001	212,911
預金積金残高	168,737	177,468	179,682	183,852	191,731
貸出金残高	110,026	110,186	112,481	114,752	117,855
有価証券残高	38,784	40,751	43,471	44,056	55,131
(単位:%) 単体自己資本比率	13.81	14.51	14.62	14.50	14.95
(単位:円) 出資に対する配当金(※出資1口あたり)	40	40	40	40	40
(単位:人) 役員数	10	10	11	10	10
うち常勤役員数	7	7	8	7	7
職員数	204	205	201	198	194
会員数	15,701	15,942	16,128	16,523	16,679

※ 出資1口は500円です。

■資金運用収支の内訳

(単位:平均残高は百万円、利息は千円、利回りは%)

	平均残高		利 息		利回り	
	2013年度	2014年度	2013年度	2014年度	2013年度	2014年度
資金運用勘定	198,868	205,364	3,824,668	3,646,224	1.92	1.77
うち貸出金	109,342	114,687	2,634,104	2,632,660	2.40	2.29
うち預け金	45,054	41,544	190,099	131,370	0.42	0.31
うち有価証券	43,882	48,542	982,681	864,471	2.23	1.78
資金調達勘定	184,368	190,340	135,145	149,205	0.07	0.07
うち預金積金	184,267	190,236	134,636	148,683	0.07	0.07

(注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高(2013年度52百万円、2014年度56百万円)を控除しております。

2. 国内業務部門と国際業務部門の区別はしておりません。

■受取・支払利息の分析

(単位:千円)

	2013年度			2014年度		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	104,716	△ 154,269	△ 49,553	119,858	△ 298,302	△ 178,444
うち貸出金	5,226	△ 87,482	△ 82,256	118,832	△ 120,276	△ 1,444
うち預け金	22,006	19,660	41,666	△ 9,170	△ 49,559	△ 58,729
うち有価証券	10,919	△ 22,785	△ 11,866	79,259	△ 197,469	△ 118,210
支払利息	△ 3,137	—	△ 3,137	14,060	—	14,060
うち預金積金	△ 3,153	—	△ 3,153	14,047	—	14,047

(注) 1. 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、利率による増減要因に含める方法にて算出しております。

2. 国内業務部門と国際業務部門の区別はしておりません。

■総資金利鞘

(単位:%)

	2013年度	2014年度
資金運用利回	1.92	1.77
資金調達原価率	1.38	1.37
総資金利鞘	0.54	0.40

■業務粗利益の状況

(単位:千円)

	2013年度	2014年度
資金運用収支	3,689,588	3,497,018
資金運用収益	3,824,668	3,646,224
資金調達費用	135,079	149,205
役務取引等収支	△ 77,718	△ 69,423
役務取引等収益	344,292	363,262
役務収益等費用	422,011	432,685
その他業務収支	405,872	366,290
その他業務収益	778,586	719,273
その他業務費用	372,713	352,983
業務粗利益	4,017,741	3,793,885
業務粗利益率	2.02	1.84

(注) 1. 「資金調達費用」は、金銭の信託運用見合費用(2013年度65千円、2014年度—千円)を控除して表示しております。

2. 業務粗利益率 = $\frac{\text{業務粗利益}}{\text{資金運用勘定平均残高}} \times 100$

3. 国内業務部門と国際業務部門の区別はしておりません。

■経費の内訳

(単位:千円)

	2013年度	2014年度
人件費	1,539,057	1,517,007
報酬給料手当	1,217,471	1,212,445
退職給付費用	135,509	126,677
その他	186,076	177,884
物件費	876,135	922,561
事務費	317,079	338,831
うち旅費・交通費	4,375	6,240
うち通信費	36,099	34,481
うち事務機械賃借料	174	7
うち事務委託費	205,823	217,327
固定資産費	153,006	172,281
うち土地建物賃借料	39,828	40,345
うち保全管理費	77,211	78,911
事業費	79,269	84,049
うち広告宣伝費	39,586	40,263
うち交際費・寄贈費・諸会費	25,961	28,669
人事厚生費	27,899	42,798
有形・無形固定資産償却	175,161	157,587
その他	123,720	127,012
税金	41,882	45,618
合計	2,457,075	2,485,187

■総資産利益率

(単位:%)

	2013年度	2014年度
総資産経常利益率	0.55	0.77
総資産当期純利益率	0.29	0.57

(注) 総資産経常(当期純)利益率 = $\frac{\text{経常(当期純)利益}}{\text{総資産(債務保証見返除く)平均残高}} \times 100$

■貸出金残高

(単位:百万円)

	2013年度	2014年度
貸出金	114,752	117,855
うち変動金利	63,178	65,303
うち固定金利	51,574	52,552

■貸出金平均残高

(単位:百万円、%)

	2013年度		2014年度	
	残高	構成比	残高	構成比
割引手形	1,097	1.00	1,213	1.06
手形貸付	2,542	2.32	2,715	2.37
証書貸付	103,186	94.37	108,073	94.23
当座貸越	2,515	2.30	2,686	2.34
合計	109,342	100.00	114,687	100.00

■貸出金使途別残高

(単位:百万円、%)

	2013年度		2014年度	
	残高	構成比	残高	構成比
設備資金	74,465	64.89	76,970	65.31
運転資金	40,287	35.11	40,884	34.69
合計	114,752	100.00	117,855	100.00

■役職員の報酬体系について

1. 対象役員

当金庫における報酬体系の開示対象となる「対象役員」は、常勤理事及び常勤監事をいいます。対象役員に対する報酬等は、職務執行の対価として支払う「基本報酬」、在任期間中の職務執行の対価として退任時に支払う「退職慰労金」で構成されております。

(1) 報酬体系の概要

【基本報酬】

非常勤を含む全役員の基本報酬につきましては、総代会において、理事全員及び監事全員それぞれの支払総額の最高限度額を決定しております。

そのうえで、各理事の基本報酬額につきましては役位や在任年数等を基本とし一部に前年度の業績を反映させることとした規定に基づいて、理事会において決定しております。また、各監事の基本報酬額につきましては、規定に基づいて、監事の協議により決定しております。

【退職慰労金】

退職慰労金につきましては、在任期間中に毎期引当金を計上し、退任時に総代会で承認を得た後、支払っております。

なお、当金庫では、全役員に適用される退職慰労金の支払いに関して、主として次の事項を規定で定めております。

a. 決定方法 b. 支給制限

(2) 平成26年度における対象役員に対する報酬等の支払総額 (単位:百万円)

区 分	支払総額
対象役員に対する報酬等	164

(注) 1. 対象役員に該当する理事は6名、監事は1名です(期中に退任した者はいません。)

2. 上記の内訳は、「基本報酬」142百万円、「退職慰労金」22百万円となっております。

なお、「基本報酬」には、規定に基づく交通費等が含まれています。「退職慰労金」は、当年度中に支払った退職慰労金(過年度に繰り入れた引当金分を除く)と当年度に繰り入れた役員退職慰労引当金の合計額です。

(3) その他

「信用金庫法施行規則第132条第1項第6号等の規定に基づき、報酬等に関する事項であって、信用金庫等の業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与えるものとして金融庁長官が別に定めるものを定める件」(平成24年3月29日付金融庁告示第22号)第3条第1項第3号及び第5号並びに第2項第3号及び第5号に該当する事項はありませんでした。

2. 対象職員等

当金庫における報酬体系の開示対象となる「対象職員等」は、当金庫の非常勤役員、当金庫の職員、当金庫の主要な連結子法人等の役職員であって、対象役員が受ける報酬等と同等額以上の報酬等を受ける者のうち、当金庫の業務及び財産の状況に重要な影響を与える者をいいます。

なお、平成26年度において、対象職員等に該当する者はいませんでした。

(注) 1. 対象職員等には、期中に退任・退職した者も含めております。

2. 「主要な連結子法人等」とは、当金庫の連結子法人等のうち、当金庫の連結総資産に対して2%以上の資産を有する会社等をいいます。なお、平成26年度においては、該当する会社はありませんでした。

3. 「同等額」は、平成26年度に対象役員に支払った報酬等の平均額としております。

4. 平成26年度において対象役員が受ける報酬等と同等額以上の報酬等を受ける者はいませんでした。

以 上



ハリー

■貸出金の担保別内訳

(単位:百万円)

	2013年度	2014年度
当 金 庫 預 金 積 金	857	897
有 価 証 券	—	—
動 産	—	—
不 動 産	37,757	40,399
そ の 他	—	—
小 計	38,615	41,296
信用保証協会・信用保険	19,251	19,295
保 証 証 券	11,036	11,159
信 用	45,849	46,104
合 計	114,752	117,855

■債務保証見返の担保別内訳

(単位:百万円)

	2013年度	2014年度
当 金 庫 預 金 積 金	3	3
有 価 証 券	—	—
動 産	—	—
不 動 産	242	116
そ の 他	—	—
小 計	245	119
信用保証協会・信用保険	—	—
保 証 証 券	33	21
信 用	82	107
合 計	360	248

■業種別貸出金内訳

(単位:先、百万円、%)

	2013年度			2014年度		
	貸 出 先 数	貸 出 金 残 高	構 成 比	貸 出 先 数	貸 出 金 残 高	構 成 比
製 造 業	221	4,247	3.70	234	4,410	3.74
農 業	6	467	0.40	6	336	0.29
林 業	0	—	—	0	—	—
漁 業	6	33	0.02	7	44	0.04
鉱 業、採 石 業、砂 利 採 取 業	2	50	0.04	2	52	0.04
建 設 業	638	9,242	8.05	664	9,107	7.73
電 気・ガ ス・熱 供 給・水 道 業	4	659	0.57	4	624	0.53
情 報 通 信 業	15	67	0.05	15	89	0.08
運 輸 業	102	2,214	1.92	103	2,729	2.32
卸 売 業、小 売 業	480	7,065	6.15	487	6,550	5.56
金 融・保 険 業	8	828	0.72	9	883	0.75
不 動 産 業	351	29,902	26.05	367	31,245	26.51
物 品 賃 貸 業	6	481	0.41	5	561	0.48
学 術 研 究、専 門・技 術 サ ー ビ ス 業	26	139	0.12	27	134	0.11
宿 泊 業	7	1,017	0.88	7	1,003	0.85
飲 食 業	217	2,754	2.39	223	2,618	2.22
生 活 関 連 サ ー ビ ス 業、娯 楽 業	119	3,418	2.97	127	3,239	2.75
教 育、学 習 支 援 業	7	44	0.03	7	125	0.11
医 療、福 祉	125	6,250	5.44	142	7,096	6.02
そ の 他 の サ ー ビ ス	253	3,634	3.16	279	3,442	2.92
小 計	2,593	72,520	63.19	2,715	74,296	63.04
国・地 方 公 共 団 体 等	13	5,625	4.90	14	5,779	4.90
個 人	11,849	36,607	31.90	11,777	37,779	32.06
合 計	14,455	114,752	100.00	14,506	117,855	100.00

(注) 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

■貸倒引当金の内訳

(単位:百万円)

	2013年度			2014年度		
	一般 貸倒引当金	個別 貸倒引当金	合 計	一般 貸倒引当金	個別 貸倒引当金	合 計
期 首 残 高	459	3,691	4,151	421	3,695	4,116
当 期 増 加 額	421	3,695	4,116	493	3,294	3,788
当 期 目 的 使 用	—	335	335	—	193	193
減 少 額	459	3,356	3,815	421	3,502	3,923
期 末 残 高	421	3,695	4,116	493	3,294	3,788

■貸出金償却

(単位:千円)

2013年度	2014年度
45	133

■預貸率

(単位:百万円、%)

	2013年度	2014年度
貸 出 金 (A)	114,752	117,855
預 金 (B)	183,852	191,731
預 貸 率 (A/B)	62.41	61.46
期 中 平 残	59.33	60.28

(注) 1. 預金には定期積金および譲渡性預金を含んでおります。
 2. 国内業務部門と国際業務部門の区別はしていません。

■預証率

(単位:百万円、%)

	2013年度	2014年度
有 価 証 券 (A)	44,056	55,131
預 金 (B)	183,852	191,731
預 証 率 (A/B)	23.96	28.75
期 中 平 残	23.81	25.51

(注) 1. 預金には定期積金および譲渡性預金を含んでおります。
 2. 国内業務部門と国際業務部門の区別はしていません。

リスク管理債権および同債権に対する保全状況 (単位:百万円)

		残 高 (A)	担保・保証 (B)	貸倒引当金 (C)	保全率 (%) (B+C) / (A)
破 綻 先 債 権	2013年度	812	86	726	100.00
	2014年度	748	41	706	100.00
延 滞 債 権	2013年度	5,104	2,056	2,932	97.73
	2014年度	4,462	1,794	2,578	97.98
3カ月以上 延 滞 債 権	2013年度	—	—	—	—
	2014年度	—	—	—	—
貸 出 条 件 緩 和 債 権	2013年度	—	—	—	—
	2014年度	—	—	—	—
合 計	2013年度	5,916	2,142	3,658	98.04
	2014年度	5,210	1,835	3,284	98.25

- (注) 1. 「破綻先債権」とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していること、その他の事由により、元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(未収利息不計上貸出金)のうち、次のいずれかに該当する債務者に対する貸出金です。
 ①会社更生法又は金融機関等の更生手続の特例等に関する法律の規定による更生手続開始の申立てがあった債務者
 ②民事再生法の規定による再生手続開始の申立てがあった債務者
 ③破産法の規定による破産手続開始の申立てがあった債務者
 ④会社法の規定による特別清算開始の申立てがあった債務者
 ⑤手形交換所による取引停止処分を受けた債務者
 2. 「延滞債権」とは、未収利息不計上貸出金のうち次の2つを除いた貸出金です。
 ①上記「破綻先債権」に該当する貸出金
 ②債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金(金利棚上げにより未収利息不計上した貸出金)
 3. 「3カ月以上延滞債権」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しない貸出金です。
 4. 「貸出条件緩和債権」とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しない貸出金です。
 5. なお、これらの開示額は、担保処分による回収見込額、保証による回収が可能と認められる額や既に引当ている個別貸倒引当金を控除する前の金額であり、全てが損失となるものではありません。
 6. 「担保・保証額」は、自己査定に基づいて計算した担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額の合計額です。
 7. 「貸倒引当金」については、リスク管理債権区分の各項目の貸出金に対して引当てた金額を記載しており、貸倒対照表の残高より少なくなっています。
 8. 「保全率」はリスク管理債権ごとの残高に対し、担保・保証、貸倒引当金を設定している割合です。

金融再生法開示債権および同債権に対する保全状況 (単位:百万円)

		開示残高 (A)	保全額 (B)	担保・保証等による 回収見込額(C)	貸倒引当金 (D)	保全率 (%) (B) / (A)	引当率 (%) (D) / (A-C)
金融再生法上の不良債権	2013年度	5,952	5,827	2,132	3,695	97.90	96.73
	2014年度	5,229	5,104	1,809	3,294	97.61	96.32
	破産更生債権及び これらに準ずる債権	2013年度	4,180	4,180	3,047	100.00	100.00
		2014年度	3,847	3,847	2,883	100.00	100.00
	危 険 債 権	2013年度	1,772	1,656	647	93.45	84.80
		2014年度	1,382	1,258	411	91.03	76.68
要 管 理 債 権	2013年度	—	—	—	—	—	—
	2014年度	—	—	—	—	—	—
正 常 債 権	2013年度	109,295					
	2014年度	112,990					
合 計	2013年度	115,247					
	2014年度	118,220					

- (注) 1. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産、会社更生、民事再生手続、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
 2. 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
 3. 「要管理債権」とは、「3カ月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金をいいます。
 4. 「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権であり、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権をいいます。
 5. 「金融再生法上の不良債権」における「貸倒引当金」には、正常債権に対する一般貸倒引当金を除いて計上しております。

預金・譲渡性預金平均残高 (単位:百万円)

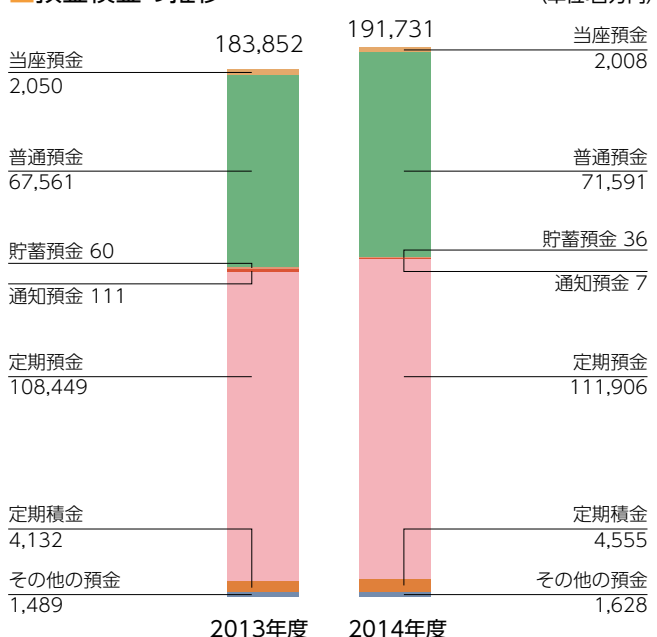
	2013年度	2014年度
流 動 性 預 金	69,656	73,113
うち 有 利 息 預 金	62,467	62,773
定 期 性 預 金	113,936	116,442
うち 固定金利定期預金	113,926	116,423
うち 変動金利定期預金	10	19
そ の 他	675	681
小 計	184,267	190,236
譲 渡 性 預 金	—	—
合 計	184,267	190,236

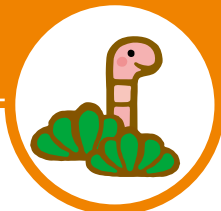
- (注) 1. 流動性預金=当座預金+普通預金+貯蓄預金+通知預金
 2. 定期性預金=定期預金+定期積金
 固定金利定期預金:預入時に満期日までの利率が確定する定期預金
 変動金利定期預金:預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期預金

定期預金残高 (単位:百万円)

	2013年度	2014年度
定 期 預 金	108,449	111,906
固 定 金 利 定 期 預 金	108,436	111,881
変 動 金 利 定 期 預 金	13	25
そ の 他	—	—

預金積金の推移 (単位:百万円)





資料編

ウィルパー

■有価証券の期末・平均残高

(単位:百万円)

	2013年度		2014年度	
	期末残高	平均残高	期末残高	平均残高
国債	6,146	4,878	7,160	6,316
地方債	947	1,043	1,474	1,409
社債	16,007	17,899	17,888	17,573
株式	379	444	116	258
外国証券	11,338	12,376	14,208	11,970
その他の証券	9,236	7,240	14,282	11,014
合計	44,056	43,882	55,131	48,542



■有価証券残存期間別残高(満期があるもの)

(単位:百万円)

	2013年度				2014年度			
	1年以下	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超	1年以下	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
国債	—	5,300	—	—	—	2,500	4,000	—
地方債	—	—	900	—	—	—	1,400	—
社債	700	7,536	7,145	200	400	7,136	9,515	300
外国証券	1,400	4,782	800	4,400	1,432	5,061	1,050	6,450
その他の証券	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	2,100	17,618	8,845	4,600	1,832	14,697	15,965	6,750

■有価証券の時価情報

1. その他有価証券

(単位:百万円)

	種 類	2013年度			2014年度		
		貸借対照表計上額	取得原価(償却原価)	差 額	貸借対照表計上額	取得原価(償却原価)	差 額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	279	195	83	11	7	3
	債券	22,222	21,657	564	26,202	25,847	354
	国債	6,146	5,778	368	7,160	7,068	91
	地方債	947	930	17	1,474	1,443	31
	社債	15,127	14,948	179	17,567	17,335	231
	その他	13,787	11,850	1,936	20,103	16,807	3,295
	小 計	36,289	33,704	2,585	46,316	42,663	3,653
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	73	91	△ 18	78	89	△ 11
	債券	879	882	△ 2	321	323	△ 2
	国債	—	—	—	—	—	—
	地方債	—	—	—	—	—	—
	社債	879	882	△ 2	321	323	△ 2
	その他	6,786	7,184	△ 397	8,388	8,735	△ 347
	小 計	7,740	8,159	△ 418	8,787	9,149	△ 361
合 計		44,029	41,863	2,166	55,104	51,812	3,292

(注) 1. 貸借対照表計上額は、期末日における市場価格等に基づいております。
2. 上記の「その他」は外国証券及び投資信託等です。
3. 時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券は本表に含めておりません。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券 (単位:百万円)

	2013年度	2014年度
	貸借対照表計上額	貸借対照表計上額
子会社株式	10	10
非上場株式等	16	16
合 計	26	26

■デリバティブ取引

■商品有価証券平均残高

■金銭の信託

2015年3月31日現在該当はありません。

■自己資本比率

1. 自己資本の構成に関する事項

(単位:百万円)

項 目	2013年度	経過措置による 不算入額	2014年度	経過措置による 不算入額
コア資本に係る基礎項目 (1)				
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	15,880		17,059	
うち、出資金及び資本剰余金の額	196		197	
うち、利益剰余金の額	15,699		16,876	
うち、外部流出予定額(△)	15		15	
うち、上記以外に該当するものの額	—		—	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	421		493	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	421		493	
うち、適格引当金コア資本算入額	—		—	
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—		—	
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—		—	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—		—	
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	16,301		17,552	
コア資本に係る調整項目 (2)				
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)の額の合計額	—	30	5	21
うち、のれんに係るものの額	—	—	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	—	30	5	21
繰延税金資産(一時差異に係るものを除く。)の額	—	—	—	—
適格引当金不足額	—	—	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—	—	—
前払年金費用の額	—	—	55	—
自己保有普通出資等(純資産の部に計上されるものを除く。)の額	—	—	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—	—	—
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額	—	—	—	—
信用金庫連合会の対象普通出資等の額	—	—	—	—
特定項目に係る10パーセント基準超過額	—	—	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—	—	—
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	—	—	—	—
特定項目に係る15パーセント基準超過額	—	—	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—	—	—
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	—	—	—	—
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	—		60	
自己資本				
自己資本の額((イ) - (ロ)) (ハ)	16,301		17,491	
リスク・アセット等 (3)				
信用リスク・アセットの額の合計額	105,443		110,160	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	30		21	
うち、無形固定資産(のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)	30		21	
うち、繰延税金資産	—		—	
うち、前払年金費用	—		—	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	—		—	
うち、上記以外に該当するものの額	—		—	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8パーセントで除して得た額	6,977		6,809	
信用リスク・アセット調整額	—		—	
オペレーショナル・リスク相当額調整額	—		—	
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	112,421		116,969	
自己資本比率				
自己資本比率((ハ) / (ニ))	14.50%		14.95%	

(注) 自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出しております。
なお、当金庫は国内基準を採用しています。



ローレル&ミント

2. 自己資本の充実度に関する事項

(単位:百万円)

	2013年度		2014年度	
	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
イ.信用リスクアセット・所要自己資本の額合計	105,443	4,217	110,160	4,406
①標準的手法が適用されるポートフォリオごとのエクスポージャー	105,333	4,213	109,854	4,394
ソブリン向け	502	20	1,017	40
金融機関向け	13,278	531	13,026	521
法人等向け	26,209	1,048	28,238	1,129
中小企業等・個人向け	31,034	1,241	32,450	1,298
抵当権付住宅ローン	1,141	45	929	37
不動産取得等事業向け	21,350	854	22,735	909
3ヵ月以上延滞等	323	12	168	6
上記以外	11,492	459	11,286	451
②証券化エクスポージャー	0	0	6	0
③複数の資産を裏付けとする資産(所謂ファンド)のうち、個々の資産の把握が困難な資産	4	0	47	1
④経過措置によりリスクアセットの額に算入されるものの額	30	1	21	0
⑤CVAリスク相当額を8%で除して得た額	73	2	229	9
⑥中央清算機関関連エクスポージャー	0	0	0	0
ロ.オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額	6,977	279	6,809	272
ハ.単体総所要自己資本額(イ+ロ)	112,421	4,496	116,969	4,678

(注) 1. 所要自己資本の額=リスクアセット×4%

2. 「エクスポージャー」とは、資産(派生商品取引によるものを除く)並びにオフバランス取引及び派生商品取引の与信相当額等のことです。

3. 「3ヵ月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「ソブリン向け」、「金融機関向け」、「法人等向け」においてリスク・ウェイトが150%になったエクスポージャーのことです。

4. オペレーショナルリスクは、当金庫は基礎的手法を採用しています。

＜オペレーショナル・リスク(基礎的手法)の算定方法＞ $\frac{\text{粗利益(直近3年間のうち正の値の合計額)} \times 15\%}{\text{直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数}} \div 8\%$

5. 単体総所要自己資本額=単体自己資本比率の分母の額×4%

3. 信用リスクに関するエクスポージャー及び主な種類別の期末残高

＜業種別及び残存期間別＞

(単位:百万円)

業種区分 期間区分	エクスポージャー 区分	信用リスクエクスポージャー期末残高								3ヵ月以上延滞 エクスポージャー	
		貸出金、コミットメント及び その他のデリバティブ以外の オフ・バランス取引		債 券							
				国 内		国 外					
		2013年度	2014年度	2013年度	2014年度	2013年度	2014年度	2013年度	2014年度	2013年度	2014年度
製 造 業		7,176	7,013	4,372	4,602	2,209	2,006	400	400	6	1
農 業 、 林 業		482	345	482	345	－	－	－	－	6	－
漁 業		59	68	59	68	－	－	－	－	0	0
鉱業、採石業、砂利採取業		653	1,014	50	52	601	610	－	307	－	－
建 設 業		10,795	10,784	10,587	10,534	208	205	－	－	525	618
電気・ガス・熱供給・水道業		1,761	1,869	659	625	712	707	300	300	－	－
情報通信業		329	495	125	138	－	－	200	200	－	－
運 輸 業 、 郵 便 業		3,094	3,872	2,285	2,859	603	807	204	204	35	36
卸 売 業 、 小 売 業		8,967	8,440	7,743	7,221	1,224	1,219	－	－	538	138
金 融 ・ 保 険 業		57,052	54,779	863	921	3,916	3,614	8,751	9,917	－	－
不 動 産 業		35,928	37,294	30,689	32,415	1,226	1,225	－	－	886	772
物 品 賃 貸 業		497	575	497	575	－	－	－	－	－	－
学術研究、専門・技術サービス業		208	239	208	239	－	－	－	－	－	－
宿 泊 業		1,023	1,007	1,023	1,007	－	－	－	－	－	25
飲 食 業		3,145	3,059	3,145	3,059	－	－	－	－	31	50
生 活 関 連 サ ー ビ ス 業		3,650	3,547	3,650	3,547	－	－	－	－	249	245
教 育 、 学 習 支 援 業		68	158	68	158	－	－	－	－	5	－
医 療 、 福 祉		6,683	7,516	6,466	7,300	207	205	－	－	－	299
そ の 他 サ ー ビ ス		4,239	4,132	4,229	3,985	－	－	－	－	32	3
国・地方公共団体等		20,522	28,024	5,626	5,780	11,629	15,569	1,299	2,507	－	－
個 人		32,245	32,638	32,245	32,638	－	－	－	－	122	45
そ の 他		6,704	6,796	167	140	－	－	－	－	－	－
業 種 別 合 計		205,289	213,675	115,247	118,220	22,539	26,171	11,156	13,836	2,442	2,237
1 年 以 下		38,268	36,470	10,170	11,543	699	401	1,397	1,431	－	－
1 年 超 3 年 以 下		14,646	23,699	7,313	7,999	1,745	7,443	2,986	3,078	－	－
3 年 超 5 年 以 下		27,304	18,312	11,570	11,941	11,646	2,513	1,796	1,997	－	－
5 年 超 7 年 以 下		20,599	22,623	11,484	11,687	5,694	9,466	600	621	－	－
7 年 超 1 0 年 以 下		23,473	23,254	18,719	16,750	2,553	6,047	200	456	－	－
1 0 年 以 上		60,354	64,736	55,978	58,286	200	200	4,175	6,249	－	－
期 間 の 定 め の な い も の		20,643	24,578	8	9	－	100	－	－	－	－
残 存 期 間 別 合 計		205,289	213,675	115,247	118,220	22,539	26,171	11,156	13,836	－	－

(注) 1. オフ・バランス取引は、デリバティブ取引を除いております。

2. 「3ヵ月以上延滞エクスポージャー」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャーのことです。

3. 上記の「その他」は、裏付となる個々の資産の全部又は一部を把握することが困難な投資信託等及び業種区分に分類することが困難なエクスポージャーです。

4. CVAリスク及び中央清算機関関連エクスポージャーは含まれておりません。

5. 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

4. 一般貸倒引当金、個別貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

P29の「貸倒引当金の内訳」をご覧ください。

5. 業種別の個別貸倒引当金及び貸出金償却の残高等

(単位:百万円)

	個別貸倒引当金						貸出金償却	
	当期増加額		当期減少額		期末残高			
	2013年度	2014年度	2013年度	2014年度	2013年度	2014年度	2013年度	2014年度
製 造 業	87	26	163	87	87	26	－	6
農 業	4	0	4	4	4	0	－	－
林 業	－	－	－	－	－	－	－	－
漁 業	0	0	－	0	0	0	－	－
鉱 業、採 石 業、砂 利 採 取 業	－	－	－	－	－	－	－	－
建 設 業	836	926	708	836	836	926	－	4
電 気・ガ ス・熱 供 給・水 道 業	－	－	－	－	－	－	－	－
情 報 通 信 業	0	0	0	0	0	0	－	－
運 輸 業、郵 便 業	212	172	181	212	212	172	－	－
卸 売 業、小 売 業	454	152	652	454	454	152	－	－
金 融 ・ 保 険 業	－	－	－	－	－	－	－	－
不 動 産 業	1,034	857	1,419	1,034	1,034	857	－	－
物 品 賃 貸 業	12	7	－	12	12	7	－	－
学術研究、専門・技術サービス業	－	－	－	－	－	－	－	－
宿 泊 業	64	25	18	64	64	25	－	－
飲 食 業	48	43	41	48	48	43	－	－
生活関連サービス業、娯楽業	393	337	389	393	393	337	－	－
教 育、学 習 支 援 業	2	0	－	2	2	0	－	－
医 療、福 祉	371	652	0	371	371	652	－	－
そ の 他 の サ ー ビ ス	32	3	29	32	32	3	－	－
国・地 方 公 共 団 体 等	－	－	－	－	－	－	－	－
個 人	140	96	79	140	140	96	1	0
合 計	3,695	3,294	3,691	3,695	3,695	3,294	1	11

6. リスク・ウェイトの区分ごとのエクスポージャーの額等

(単位:百万円)

告示で定めるリスク・ウェイト区分	エクスポージャーの額			
	期末残高			
	2013年度		2014年度	
	格付適用有り	格付適用無し	格付適用有り	格付適用無し
0%	—	23,002	—	24,283
10%	—	1,641	863	4,833
20%	489	49,381	4,069	48,185
35%	—	2,980	1,203	2,433
50%	4,171	9,219	—	10,491
75%	—	38,851	—	40,294
100%	1,710	55,268	700	59,251
150%	—	33	—	31
250%	—	486	—	511
1250%	—	—	—	—
その他	—	331	—	228
合 計	6,370	181,197	6,836	190,545

(注) 1. 格付は適格格付機関が付与しているものに限ります。

2. エクスポージャーは信用リスク削減手法適用後のリスク・ウェイトに区分しています。

3. コア資本に係る調整項目となったエクスポージャー(経過措置による不算入分を除く)、CVAリスクおよび中央清算機関関連エクスポージャーは含まれておりません。

7. 信用リスク削減手法に関する事項

(単位:百万円)

ポートフォリオ	信用リスク削減手法		適格金融資産担保		保 証		クレジット・デリバティブ	
	2013年度	2014年度	2013年度	2014年度	2013年度	2014年度	2013年度	2014年度
信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー	545	525	21,562	22,369	—	—	—	—

(注) 当金庫は、適格金融資産担保について簡便手法を用いています。



やまのさん

8. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

(単位:百万円)

与信相当額の算出に用いる方式	2013年度		2014年度	
	カレントエクスポージャー方式		カレントエクスポージャー方式	
	担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額		担保による信用リスク削減手法の効果を勘案した後の与信相当額	
	2013年度	2014年度	2013年度	2014年度
①派生商品取引合計	56	47	56	47
外国為替関連取引	15	47	15	47
株式関連取引	40	—	40	—
②長期決済期間取引	—	—	—	—
合 計	56	47	56	47
担保の種類別額の額	2013年度		2014年度	
	担保はありません		担保はありません	

9. 出資等エクスポージャーに関する事項

イ. 貸借対照表計上額及び時価

(単位:百万円)

		貸借対照表計上額	時価のあるもの	内 訳	
				時価のないもの	
				子会社株式	子会社株式以外
上場株式等	2013年度	6,827	6,827	—	—
	2014年度	7,429	7,429	—	—
非上場株式等	2013年度	1,042	425	10	606
	2014年度	1,045	428	10	606
合 計	2013年度	7,870	7,253	10	606
	2014年度	8,474	7,858	10	606

(注) 1. 貸借対照表計上額及び時価は、期末日における市場価格等に基づいております。
2. 子会社株式以外には、信金中金等への出資金を含んでおります。

ロ. 出資等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

(単位:百万円)

		売却益	売却損	償 却
出 資 等 エクスポージャー	2013年度	31	144	—
	2014年度	157	—	—

(注) 損益計算書における損益の額を記載しております。

ハ. 貸借対照表で認識され、かつ損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位:百万円)

	2013年度	2014年度
評 価 損 益	1,550	2,694

ニ. 貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位:百万円)

	2013年度	2014年度
評 価 損 益	—	—

10. 金利リスクに関する事項

(単位:百万円)

運 用 勘 定			調 達 勘 定		
区 分	金利リスク量		区 分	金利リスク量	
	2013年度	2014年度		2013年度	2014年度
貸 出 金	374	365	定 期 性 預 金	5	5
有 価 証 券 等	634	600	要 求 払 預 金	17	18
預 け 金	371	36	そ の 他	－	－
コ ー ロ ー ン 等	－	－	調 達 勘 定 合 計	22	23
そ の 他	－	－			
運 用 勘 定 合 計	1,379	1,001			

(注) 1. 銀行勘定における金利リスクは、金融機関の保有する資産・負債のうち、市場金利に影響を受けるもの(例えば、貸出金、有価証券、預金等)が、金利ショックにより発生するリスク量を見るものです。当金庫では、過去実際に起こった大きな金利リスク量99%値(99パーセンタイル値)(※)を採用し、銀行勘定の金利リスク量を算出しております。平成26年度のリスク量は978百万円となり、自己資本に占める割合は5.59%となっています。
2. 要求払預金の金利リスク量は、明確な金利改定間隔がなく、預金者の要求によって随時払い出される要求払預金のうち、引き出されることなく長期間金融機関に滞留する預金をコア預金と定義し、当金庫では、普通預金等の額の50%相当額を0～5年の期間に均等に振り分けて(平均2.5年)リスク量を算定しています。
3. 銀行勘定の金利リスクは、運用勘定の金利リスク量と調達勘定の金利リスク量を相殺して算定します。
銀行勘定の金利リスク量(978百万円)＝運用勘定の金利リスク量(1,001百万円)＋調達勘定の金利リスク量(△23百万円)
(※)99%値:市場金利の過去6年間の日次のデータより、5年間の対前年同日の金利差を求め、これを金利差の小さい順に並べ替え、100のブロックに区分します。この100ブロックを小さい順から数えて99ブロック目を特定し、この中で最も大きな金利差データより算出されたリスク量。

11. 当金庫の自己資本の充実の状況等について

～定期的な開示項目～

1. 自己資本の調達手段

当金庫の平成26年度末の自己資本は、主に地域のお客様からお預かりしている出資金と過去から積み立てている積立金であります。

2. 自己資本の充実に関する評価方法の概要

当金庫の自己資本の充実度に関しましては、自己資本比率が14.95%と国内基準の4%を3倍以上も上回っており、経営の健全度・安全性は十分保っていると考えています。今後の自己資本の充実についても、年度ごとの期間利益による内部留保の積み上げを第一義的な施策と考えております。

3. 信用リスクに関する項目

(1) リスク管理の方針及び手続きの概要

信用リスクとは取引先の財務状況の悪化などにより当金庫が損失を受けるリスクのことをいいます。

当金庫では、信用リスクを管理すべき最重要のリスクであると認識し、役職員が理解遵守できるよう厳正な与信判断を行うため「信用リスク管理規定」を制定して、信用リスク管理を徹底しております。

信用リスクの評価は、小口多数取引の徹底によるリスクの分散の他、与信ポートフォリオ管理として債務区分別、業種別さらには与信集中によるリスクの抑制のため大口与信先の管理など様々な角度からの分析に注力しております。さらにリスク管理委員会において検討を深めております。

貸倒引当金は「自己査定基準」及び「償却・引当に関する規定」に基づき、自己査定における債務者区分ごとに算定しております。一般貸倒引当金にあたる正常先、要注意先、要管理先については、債務者区分ごとの債権額にそれぞれ貸倒実績率に基づいた予想損失率を乗じて算出しております。また、個別貸倒引当金に関しては、破綻懸念先、実質破綻先及び破綻先とともに、優良保証、優良担保等を除いた未保全額に対して貸倒実績率に基づいた予想損失率を乗じて算出しております。なお、それぞれの結果については監査法人の監査を受けるなど、適正な計上に努めてまいります。

(2) リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関

リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関は、以下の4つの機関を採用しております。

なお、エクスポージャーの種類ごとに適格格付機関の使い分けは行っておりません。

(株) 格付投資情報センター (R&I)

(株) 日本格付研究所 (JCR)

ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク (Moody's)

スタンダード・アンド・プアーズ・レーティング・サービス (S&P)

4. 信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続きの概要

信用リスク削減手法とは、金庫が抱えている信用リスクを軽減化するための措置をいい、具体的には、預金担保、有価証券担保、保証などが該当します。

当金庫では、融資の取上げに際し、資金使途、返済原資、財務内容、事業環境、経営者の資質など、さまざまな角度から可否の判断をしており、担保や保証による保全措置は、あくまでも補完的な位置付けとして認識しております。したがって、担保又は保証に過度に依存しないような融資の取上げ姿勢に徹しております。

ただし、与信審査の結果、担保又は保証が必要な場合には、お客さまへの十分な説明とご理解をいただいた上で、ご契約いただくなど適切な取扱いに努めております。

5. 証券化エクスポージャーに関する事項

保有している投資信託の中に25百万円(リスクウェイト20%~50%)がございます。

6. オペレーショナル・リスクに関する項目

当金庫では、オペレーショナル・リスクを「内部プロセス・人・システムが不適切であることもしくは機能しないこと、または外生的事象が生じることから当金庫に生じる損失にかかるリスク」と定義しています。

当金庫は、リスク管理委員会において、事務リスク、システム等リスク、その他のオペレーショナル・リスクに大別して、管理体制や管理方法に関するリスク管理の基本方針を検討しています。

リスクの計測に関しましては、当面、基礎的手法を採用していく所存であります。

7. 銀行勘定における出資その他これに類するエクスポージャー又は株式等エクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要

上場株式、上場優先出資証券、上場不動産投資信託、株式関連投資信託にかかるリスクの認識については、時価評価及びTOPIX10%下落時の最大予想損失額によるリスク計測によって把握するとともに、当金庫の抱える市場リスクの状況や、設定された残高限度枠等を月例で開催している資金運用会議において経営陣に詳細に報告しております。

一方、非上場株式、子会社・関連会社株式等については、財務諸表等や事業報告を基にした評価による定期的なモニタリングを実施するとともに、「自己査定」を行い、資産価値を評価し経営陣へ報告するなど、適切なリスク管理に努めております。

なお、当該取引にかかる会計処理については、当金庫が定める「有価証券会計処理基準」及び日本公認会計士協会の「金融商品会計に関する実務指針」に従った、適正な処理を行っています。

8. 銀行勘定における金利リスクに関する事項

(1) リスク管理の方針及び手続きの概要

金利リスクとは、市場金利の変動によって受ける資産価値の変動や、将来の収益性に対する影響を指しますが、当金庫においては、双方ともに定期的な評価・計測を行い、適宜、対応を講じる態勢としております。

具体的には、一定の金利ショックを想定した場合の銀行勘定の金利リスクの計測や、金利更改を勘案した期間収益シミュレーションによる収益への影響度等について今後、必要に応じて経営陣へ報告態勢を行うなど、資産・負債の最適化に向けたリスク・コントロールに努めてまいります。

(2) 内部管理上使用した銀行勘定における金利リスクの算定手法の概要

金利リスク算定の前提は、以下の定義に基づいて算定しております。

・計測手法

預貸金は「内部計算方式」、有価証券は「内部計算方式」

・コア預金

対象:流動性預金全般(当座、普通、貯蓄預金等)

算定方法:①過去5年の最低残高

②過去5年の最大年間流出量を現残高から差し引いた残高

③現残高の50%相当額

以上3つのうち最小の額を上限

満期:平均2.5年

・金利感応資産・負債

預金、貸出金、有価証券、預け金、その他の金利・期間を有する資産・負債

・金利ショック幅

99パーセンタイル値

・リスク計測の頻度

四半期末

9. 連結の範囲に関する事項等

当金庫には、子会社としておんしんビジネスサービス株式会社があります。遠賀信用金庫グループとして連結された財務諸表は、連結財務諸表規則第5条第2項で規定される重要性の原則により、作成しておりません。このため連結財務諸表を基礎とする諸指標は算出しておりません。

各種経営指標については遠賀信用金庫単体のものをご参照ください。





遠賀信用金庫グループについて

フラワー

遠賀信用金庫グループの主要な事業の内容

当金庫、子会社1社で構成され、信用金庫業務を中心に、事務処理代行業務などの金融サービスを提供しております。

遠賀信用金庫グループの事業系統図



子会社等の状況

名 称	おんしんビジネスサービス株式会社
所在地(福岡県)	遠賀郡岡垣町東山田2丁目3番3号
資本金又は出資金	1,000万円
事業の内容	遠賀信用金庫の委託業務
設立年月日	平成7年9月14日
当金庫の株式等の所有割合	100%
子会社等の株式の所有割合	-

連結自己資本比率

当金庫では、子会社は当信用金庫グループの財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を誤らせない程度に重要性が乏しいと認められるため、連結財務諸表は作成しておりません。
 なお、子会社のおんしんビジネスサービス株式会社との連結自己資本比率は下記のとおりであります。

(単位:百万円)

項 目	2013年度	経過措置による 不算入額	2014年度	経過措置による 不算入額
コア資本に係る基礎項目 (1)				
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	15,581		17,058	
うち、出資金及び資本剰余金の額	196		197	
うち、利益剰余金の額	15,700		16,876	
うち、外部流出予定額(△)	15		15	
うち、上記以外に該当するものの額	-		-	
コア資本に算入されるその他の包括利益累計額又は評価換算差額等	-		-	
コア資本に係る調整後少数株主持分の額	-		-	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	421		493	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	421		493	
うち、適格引当金コア資本算入額	-		-	
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-		-	
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-		-	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-		-	
少数株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-		-	
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	16,302		17,552	
コア資本に係る調整項目 (2)				
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)の額の合計額	-	30	5	21
うち、のれんに係るものの額	-	-	-	-
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものの以外の額	-	30	5	21
繰延税金資産(一時差異に係るものを除く。)の額	-	-	-	-
適格引当金不足額	-	-	-	-
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	-	-	-	-
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	-	-	-	-
退職給付に係る資産の額	-	-	55	-
自己保有普通出資等(純資産の部に計上されるものを除く。)の額	-	-	-	-
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	-	-	-	-
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額	-	-	-	-
信用金庫連合会の対象普通出資等の額	-	-	-	-
特定項目に係る10パーセント基準超過額	-	-	-	-
特定項目に係る15パーセント基準超過額	-	-	-	-
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	-		60	
自己資本				
自己資本の額((イ)-(ロ)) (ハ)	16,302		17,491	
リスク・アセット等 (3)				
信用リスク・アセットの額の合計額	105,433		110,150	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	30		21	
うち、無形固定資産(のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)	30		21	
うち、繰延税金資産	-		-	
うち、前払年金費用	-		-	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	-		-	
うち、上記以外に該当するものの額	-		-	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8パーセントで除して得た額	7,000		6,830	
信用リスク・アセット調整額	-		-	
オペレーショナル・リスク相当額調整額	-		-	
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	112,434		116,981	
連続自己資本比率				
連続自己資本比率((ハ)/(ニ))	14.49%		14.95%	

(注)自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出しております。

なお、当金庫は国内基準を採用しています。

開示項目索引

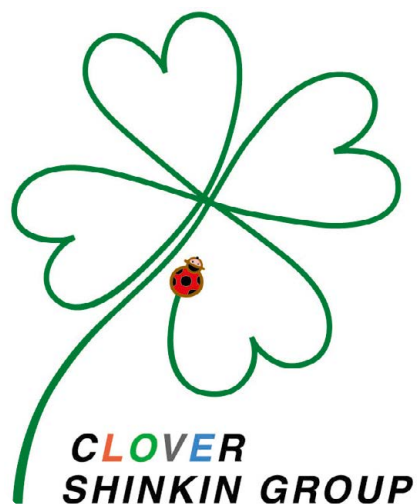
信用金庫法施行規則第132条及び133条で定められた「業務及び財産の状況に関する説明書類」(ディスクロージャー誌)の開示項目の掲載ページを示しています。

1. 金庫の概況及び組織に関する事項	4. 金庫の事業の運営に関する事項
(1)事業の組織 ……………5	(1)リスク管理の態勢……………6
(2)理事及び監事の氏名及び役職名 ……………5	(2)金融ADR制度への対応……………6
(3)事務所の名称及び所在地 ……………19、20	(3)コンプライアンスの態勢……………6
(4)信用金庫代理業者 ……………4	5. 金庫の直近の2事業年度における財産の状況
2. 金庫の主要な事業の内容 ……………4、13	(1)貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分計算書 ……22～26
3. 金庫の主要な事業に関する事項	(2)貸出金のうち次に掲げるものの額及びその合計額……………30
(1)直近の事業年度における事業の概況……………2	①破綻先債権 ②延滞債権
(2)直近の5事業年度における主要な事業の状況を示す指標……………27	③3ヵ月以上延滞債権 ④貸出条件緩和債権
①経常収益 ②経常利益 ③当期純利益	(3)自己資本の充実の状況(単体自己資本比率) ……32～36
④出資総額及び出資総口数 ⑤純資産額	(4)次に掲げるものに関する取得価額又は契約価額、
⑥総資産額 ⑦預金積金残高	時価及び評価損益
⑧貸出金残高 ⑨有価証券残高	①有価証券……………31
⑩単体自己資本比率 ⑪出資に対する配当金	②金銭の信託……………31
⑫期末職員数	③デリバティブ取引……………31
(3)直近の2事業年度における事業の状況を示す指標	(5)貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額……………29
①主要な業務の状況を示す指標	(6)貸出金償却の額……………29
a.業務粗利益及び業務粗利益率……………27	(7)会計監査人による監査……………23
b.資金運用収支、役務取引等収支、その他業務収支……………27	6. 金庫及びその子会社等の概況に関する事項
c.資金運用勘定並びに資金調達勘定の	(1)金庫及びその子会社等の主要な事業の内容及び組織の構成……………37
平均残高、利息、利回り及び利鞘……………27	(2)金庫の子会社等に関する事項……………37
d.受取利息及び支払利息の増減……………27	①名称 ②主たる営業所又は事務所の所在地
e.総資産経常利益率……………28	③資本金又は出資金 ④事業の内容
f.総資産当期純利益率……………28	⑤設立年月日 ⑥当金庫の株式等の所有割合
②預金に関する指標	⑦子会社等の株式の所有割合
a.流動性預金、定期性預金、譲渡性預金、	7. 連結自己資本比率……………37
その他の預金の平均残高……………30	8. 報酬体系について……………28
b.固定金利定期預金、変動金利定期預金	
及びその他の区分ごとの定期預金の残高……………30	
③貸出金等に関する指標	
a.割引手形、手形貸付、証書貸付、当座貸越の平均残高……………28	
b.固定金利及び変動金利の区分ごとの貸出金の残高……………28	
c.担保の種類別の貸出金残高及び債務保証見返額……………29	
d.使途別(設備資金及び運転資金)の貸出金残高……………28	
e.業種別の貸出金残高及び貸出金の総額に占める割合……………29	
f.預貸率の期末値及び期中平均値……………29	
④有価証券に関する指標	
a.商品有価証券の種類別の平均残高……………31	
b.有価証券の種類別の残存期間別残高……………31	
c.有価証券の種類別の期末・平均残高……………31	
d.預証率の期末値及び期中平均値……………29	

自主開示項目

信用金庫業界の申し合わせ項目及び主な当庫の自主開示項目のページを示しています。

1. おんしんと地域社会(地域貢献活動)……………9～12
2. 総代会について……………7、8
3. おんしんのあゆみ……………18
4. 「おんしん」この1年間の出来事……………17
5. ATMご利用案内……………20
6. 経費の内訳……………28
7. 金融再生法開示債権の状況……………30
8. 預金積金の推移……………30
9. 「おんしんのホームページ」「おんしんの通信簿」
「暮らしのあんしんコーナー」などのご案内……………14～16



遠賀信用金庫

本店／〒807-0022 福岡県遠賀郡水巻町頃末北4丁目6番18号
TEL.093-201-0034 (代)
本部／〒811-4292 福岡県遠賀郡岡垣町東山田2丁目3番3号
TEL.093-281-1501 (代)
[URL] <http://www.onshin.com/>
[E-mail] onshin@onshin.com



この冊子を製造する際の電力
(200kWh)は、自然エネルギー
でまかなわれています。



この冊子は、植
物油インキを使
用しています。

